

生産・工芸デザイン概論

Introduction to Craft and Product design

2 単位

大 学 名	神戸芸術工科大学	担 当 教 員 氏 名	笹崎 綾野 教授 向井 昌幸 教授 友定 聖雄 教授 見明 暢 教授 田頭 章徳 准教授 田口 史樹 准教授 金沢 香恵 准教授 三島 一能 助教 森岡 希世子 教授 金箱 淳一 准教授 蛭田 直 准教授 淡路谷 朋子 講師
開 講 期 間	前期 (4/9 ～ 7/30)	開 講 曜 日・時 間	火曜 1 限 (9:00 ～ 10:30)
履 修 条 件	2 年生以上	募 集 人 員	10 名程度
教 室	1225 教室	連 絡 先	

授 業 形 態	対面																														
授 業 方 法	講義																														
学 習 目 標	広範囲におよぶ生活デザイン領域から、各自の適性や志望に応じた方向性を見出し、より深い関心を持つとともに、生産・工芸デザインの世界を概観し、今後の修学およびコース選択に必要な知識とデザイン特有の学習方法について習得できる。																														
授 業 概 要	デザインという創造的な学習には、これまでの知識習得とは異なる学び方が必要である。本講義は、「生産・工芸デザイン」に取り組むための知識習得方法の学びに加えて、「生産・工芸デザイン」とは何か、また、多岐にわたる専門領域における、歴史や方法、技法、現在の最新事例を学科の教員から学ぶことを主題とする導入科目である。																														
授業時間学習以外の学習 (準備学習含む)	・プロダクトデザイン、ファッション・テキスタイル、クラフトの各分野について、興味のある事例を収集する。 ・展示会・美術館・博物館などデザインやアート作品に触れ、知見を深める。 ・新聞、雑誌、テレビ、インターネット等の各種メディアを通じて、社会状況を把握し、情報収集する。																														
授 業 計 画	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>ガイダンス (生産・工芸デザインとは) / 時代とファッション (笹崎)</td></tr> <tr><td>2</td><td>ユニバーサルファッション (笹崎)</td></tr> <tr><td>3</td><td>生活機器のデザイン (向井)</td></tr> <tr><td>4</td><td>カーデザイン (向井)</td></tr> <tr><td>5</td><td>インダストリアルデザイン (見明)</td></tr> <tr><td>6</td><td>家具とインテリアエレメント (田頭)</td></tr> <tr><td>7</td><td>デジタルファブリケーション (蛭田)</td></tr> <tr><td>8</td><td>インタラクションデザイン (金箱)</td></tr> <tr><td>9</td><td>ファッションデザイン-具現化されるイメージ 1 (金沢)</td></tr> <tr><td>10</td><td>ファッションデザイン-具現化されるイメージ 2 (金沢)</td></tr> <tr><td>11</td><td>テキスタイルデザイン (淡路谷)</td></tr> <tr><td>12</td><td>ガラス工芸 (友定)</td></tr> <tr><td>13</td><td>陶磁器 (森岡)</td></tr> <tr><td>14</td><td>金属造形・ジュエリー (田口)</td></tr> <tr><td>15</td><td>フィギュア・ミクストメディア (三島) / まとめ</td></tr> </table>	1	ガイダンス (生産・工芸デザインとは) / 時代とファッション (笹崎)	2	ユニバーサルファッション (笹崎)	3	生活機器のデザイン (向井)	4	カーデザイン (向井)	5	インダストリアルデザイン (見明)	6	家具とインテリアエレメント (田頭)	7	デジタルファブリケーション (蛭田)	8	インタラクションデザイン (金箱)	9	ファッションデザイン-具現化されるイメージ 1 (金沢)	10	ファッションデザイン-具現化されるイメージ 2 (金沢)	11	テキスタイルデザイン (淡路谷)	12	ガラス工芸 (友定)	13	陶磁器 (森岡)	14	金属造形・ジュエリー (田口)	15	フィギュア・ミクストメディア (三島) / まとめ
1	ガイダンス (生産・工芸デザインとは) / 時代とファッション (笹崎)																														
2	ユニバーサルファッション (笹崎)																														
3	生活機器のデザイン (向井)																														
4	カーデザイン (向井)																														
5	インダストリアルデザイン (見明)																														
6	家具とインテリアエレメント (田頭)																														
7	デジタルファブリケーション (蛭田)																														
8	インタラクションデザイン (金箱)																														
9	ファッションデザイン-具現化されるイメージ 1 (金沢)																														
10	ファッションデザイン-具現化されるイメージ 2 (金沢)																														
11	テキスタイルデザイン (淡路谷)																														
12	ガラス工芸 (友定)																														
13	陶磁器 (森岡)																														
14	金属造形・ジュエリー (田口)																														
15	フィギュア・ミクストメディア (三島) / まとめ																														

評 価 方 法	各回に課すレポート課題の平均点により評価する。出席が 2/3 に満たない場合、課題を提出しない場合は E 評価となる。
教 科 書	必要に応じてプリントを配布する。
参 考 図 書	必要に応じて提示する。
特 記 事 項	

ファッションマーチャンダイジング

Fashion merchandizing

2 単位

大 学 名	神戸芸術工科大学	担 当 教 員 氏 名	瀬能 徹 教授
開 講 期 間	前期 (4/9 ～ 7/30)	開 講 曜 日 ・ 時 間	火曜 2 限 (10:40 ～ 12:10)
履 修 条 件	2 年生以上	募 集 人 員	10 名程度
教 室	6318 教室	連 絡 先	

授 業 形 態	対面		
授 業 方 法	講義		
学 習 目 標	・ファッションの分野を「社会性」というキーワードで分析する。 新しい市場を予測できる力をつけるため、洞察力を身に付け、 消費者の新しいライフスタイルを見据えた商品企画力を習得する。 ・消費者と作り手の良好な関係を探り、マーケットのニーズに適応する提案力を身につける。		
授 業 概 要	近年、景気回復を期待する消費者にマインドシフトと呼ばれる新しい価値観や嗜好の変化が見られる。本講座では、地域性や時代性、また生活習慣に関わるライフシーンを再考し、マーケティングからセールスプロモーションに至るまで、トータルに提案できる商品企画を学ぶ。特に実践的内容が求められる分野であり、実際に現場で使用されている企画書など、自身の実務経験を教材にふんだんに取り入れ、実務に通用する手法を身につける。ファッションデザインが抱える現代の問題を見出し、今後の課題に向けて提案できる実践的方法論を学ぶ。		
授業時間学習以外の学習（準備学習含む）	①消費者としての自分の購買動機を客観視できる習慣を持つこと。 ②売れているモノに疑問や問題意識を持って接すること。 ③ファッションとそれ以外の商品についての接点を見つけること。		
授 業 計 画	1	オリエンテーション及び授業内容・方針・目的・評価方法の説明	
	2	マーケティングの概念：背景・定義・基本理念	
	3	生活様式とファッションの関係	
	4	商品企画・販売計画・流通の仕組	
	5	ファッション産業と小売業の変化	
	6	ファッションマーケティングサーバイについて：調査と分析	
	7	産業力とデザイン力：産業コンテクストブランディング	
	8	地場産業とダイヤモンドイノベーション	
	9	マーケティングサーバイ：市場調査・分析の結果発表	
	10	ファッションマーケティングに必要な人材とモジュールネットワーク	
	11	マーケティングの今後の課題	
	12	新たなブランドマーケティング	
	13	ブランドマネジメント	
	14	ブランドコミュニケーションの在り方	
	15	まとめ、マーケティングと次世代ターゲット	
評 価 方 法	授業毎のレポート及び、提案課題のプレゼンテーションによって評価する。		
教 科 書	オリジナルテキストの配布		
参 考 図 書	・織研新聞 ・アパレルマーチャンダイザー（織研新聞社）		
特 記 事 項	履修はファッションデザイン学科の学生を優先させる。50名以内の人数制限を行う。		

大 学 名	神戸芸術工科大学	担 当 教 員 氏 名	萬田 隆 教授 瀬能 徹 教授 山之内 誠 教授 長野 真紀 教授 長濱 伸貴 教授 朴 秀日 助教 畑 友洋 准教授 荻原 廣高 准教授 佐野 浩三 教授 藤山 哲朗 教授
開 講 期 間	前期 (4/10 ～ 7/31)	開 講 曜 日・ 時 間	水曜 2 限 (10:40 ～ 12:10)
履 修 条 件	2 年生以上	募 集 人 員	10 名程度
教 室	5101 教室	連 絡 先	

授 業 形 態	対面		
授 業 方 法	講義		
学 習 目 標	【授業の目的】 環境デザインを構成する専門分野の広がりを概観することにより、学習の全体像のなかで、専門科目の位置づけやその相互の関係性を見出す力を養う授業を行う。 【到達目標】 専任教員のそれぞれの専門分野に関する講義を通じて、環境デザイン及び建築デザインという学問分野がどのような広がりを持つものかを理解できる。		
授 業 概 要	現代における都市・建築・ランドスケープ・インテリアを中心とするデザインの動向を、優れた事例などを通して学ぶことで、この分野のデザインの特色と魅力の理解を図る。		
授業時間学習以外の学習（準備学習含む）	都市・ランドスケープ・建築・インテリアに関する書籍や雑誌に親しみ、実際に見学や空間体験することを心がける。		
授 業 計 画	1	(荻原) 気候・風土と環境デザイン	
	2	(畑) これからの建築	
	3	(萬田) 構造デザインと建築空間	
	4・5	(山之内) 日本建築史入門、日本の歴史的な建築と町並みの保存	
	6・7	(長野) 風土が育む住まい	
	8	(長濱) ランドスケープデザイン	
	9・10	(朴) 持続可能な都市とまちづくり	
	11・12	(佐野) インテリアデザインとは	
	13・14	(瀬能) 空間のブランディングとは	
	15	(藤山) アートの空間、建築の空間	
評 価 方 法	各回のレポートの採点を総合して評価を行う。		
教 科 書			
参 考 図 書	『空間演出 - 世界の建築・都市デザイン』日本建築学会編井上書院 『地球環境建築のすすめ』日本建築学会編彰国社 『環境デザインへの招待』神戸芸術工科大学編（本学図書館蔵書）		
特 記 事 項			

アニメーション作品表現論

Theory of Animation Direction

2 単位

大 学 名	神戸芸術工科大学	担 当 教 員 氏 名	原口 正宏 非常勤講師
開 講 期 間	前期 (4/10 ～ 7/31)	開 講 曜 日 ・ 時 間	水曜 4・5 限 (14:40 ～ 17:50)
履 修 条 件	2 年生以上	募 集 人 員	5 名程度
教 室	1114 教室	連 絡 先	

授 業 形 態	対面
授 業 方 法	講義
学 習 目 標	ストーリーテリングや演出法、構成力などアニメーション表現に求められる観察力を総合的につける。 絵コンテやレイアウトなど具体的な制作資料、あるいはインタビューなどの証言資料をテキストに、監督が用いる「技法」の内容と、その目的、効果を多角的に学ぶ。更に、その技法が実際の映像のなかでどのように活用されているかを確認する。それによって、現代に至るジャパンアニメーションの表現技術や物語理論を学び、多様性についても理解する。具体的に事例を挙げて説明できるようにする。
授 業 概 要	古典的名作の観賞を目的に構成した『アニメーション原論』『アニメ史』を踏まえ、より後年の時代（'80 年代～現在）を対象に、注目すべき監督と代表作を上映していくのが本講座の目的。 キーワードは“技法の比較”。優れた作品には、必ず監督がこだわる独自の映像的価値観と表現法が存在する。具体的にその特徴に眼を向け、複数の作品に潜む共通項と変化（差異）を発見、検証していく。
授業時間学習以外の学習（準備学習含む）	概ねシラバスに沿って監督と代表作品を採り上げていくので、事前に監督や作品の歴史的な位置づけなどについての下調べをしておく、観賞時の内容理解を深めるサポートとなる。また、講義中で同じ監督の別作品について触れる機会も多いので、講義後には、それら参考作品について独自に視聴するなどして視野を広げる努力をしてもらいたい。そのことが、翌週以降の別作品の鑑賞と有機的に関連し合い、より立体的、俯瞰的な技法の理解につながっていく。
授 業 計 画	1 東映の方法論とアクションカット主義 宮崎 駿『ルパン三世 カリオストロの城』
	2 虫プロの方法論と主観カット主義 出崎 統『ブラック・ジャック』
	3 客観的視点とアンチ・ファンタジー 高畑 勲『じゃりン子チエ』
	4 色彩・レイアウトの工夫とループ作画 虫プロの後継者 川尻 善昭『吸血鬼ハンター D』
	5 夢と現実 1 既成技法（時間伸縮や透過光）の応用 押井 守『うる星やつら 2 ビューティフル・ドリーマー』
	6 夢と現実 2 既成技法（アクションカットつなぎ）の応用 今 敏『パーフェクトブルー』
	7 1980 年代の変革 1 アニメ・特撮ファン世代の台頭 山賀 博之、庵野 秀明『王立宇宙軍』
	8 1980 年代の変革 2 漫画家が開拓した新たな「リアル」と映像表現 大友 克洋『AKIRA』
	9 東映動画新世代の模索 1 佐藤 順一『ユンカース・カム・ヒア』
	10 東映動画新世代の模索 2 細田 守『デジモンアドベンチャー ぼくらのウォーゲーム』
	11 東映動画派生スタジオが生んだ新世代 1 原 恵一『河童のクウと夏休み』
	12 東映動画派生スタジオが生んだ新世代 2 片渕 須直『この世界の片隅に』
	13 繰り返されるテキスト 50 年間の東映動画 演出・作画の実験場としての『ゲゲゲの鬼太郎』
	14 21 世紀テレビアニメの 2 大潮流 京都アニメーションとシャフト『日常』『さよなら絶望先生』
	15 現代日本の短編アニメーション作家たち
評 価 方 法	毎回、採り上げた作家と作品についての観賞レポート（200 字以上）を提出してもらう。 提出期限は、その日の講義終了時から翌週の講義当日まで。2 週以上遅れた課題提出は認めない。 出席した回数分は必ず提出すること。遅刻は欠席あつかいとする。 講義内容を理解し、監督の特性やその歴史的背景、スタジオ系列の影響について把握できているかどうかを判断し、評価の対象とする。必ず、描く作品の演出・作画の技法的特徴に触れ、分析する視点を盛り込むこと。「とても面白かった」「アニメの歴史がよくわかった」という表現だけに終始した抽象的な感想文は受けつけない。 レポート内容を 70%、授業参加態度を 30% として全体評価を行う。出席率 70% 未満は不可評価。

教科書	毎回、講義内容に即した資料をコピーの上、配布してテキストとして使用する。また、並行してPowerPointを使用したポイント解説を行う。配布資料には、作品、監督などについて、講義時間内では紹介しきれなかった内容も記載されているので、次週までに精読し、理解を深めておくことを奨励する。
参考図書	その都度紹介・指示をする。
特記事項	

大 学 名	神戸芸術工科大学	担 当 教 員 氏 名	田頭 章徳 准教授
開 講 期 間	後期 (9/25 ～ 1/22)	開 講 曜 日・ 時 間	水曜 2 限 (10:40 ～ 12:10)
履 修 条 件	2 年生以上	募 集 人 員	5 名程度
教 室	1225 教室	連 絡 先	

授 業 形 態	対面		
授 業 方 法	講義		
学 習 目 標	自然とデザインの関わりについて学び、自然の要素を素材、形態や構造のアイデアソースとして活用することができることを理解する。エコロジカル、サステナブルなデザインや環境問題について、常識に縛られない多角的な視点で世の中を捉える力を身につける。		
授 業 概 要	我々人間を取り巻く「自然」について興味関心を持ち視野を広げ認識を深めることで、デザインの能力 は飛躍的に向上する。この授業は、大きく二つのテーマについての講義で構成する。1. 自然界におけるデザインや自然をアイデアソースとしたデザインの事例、自然から多大な影響を受けている人間の感覚や生活文化・様式等の事例を紹介する。2. デザインと深く関わってくる環境問題、エコやサステナブルについて、一般論は本当に正しいのか？という姿勢で一般論と異なる見解やデータ、学説などを紹介し、諸問題に対してクリエイターとして持つべき姿勢のあり方について考察する。		
授業時間学習以外の学習（準備学習含む）	知識は自分で調べてはじめて身につくものなので、授業で触れた内容について独自に調べることを意識し、習慣化するように務めること。		
授 業 計 画	1	ガイダンス	
	2	自然界のかたち 動物の体のデザインについて	
	3	自然界から着想を得たデザイン 1 バイオミメティクスの事例	
	4	自然界から着想を得たデザイン 2 「記号」としての自然のモチーフの活用	
	5	自然界から着想を得たデザイン 3 素材の特性を生かしたデザイン	
	6	自然環境、文化と感覚の関係	
	7	地球は本当に温暖化しているのか	
	8	CO2 は温暖化の原因なのか	
	9	リサイクルは環境に良いのか	
	10	森林伐採は森林破壊なのか	
	11	環境問題を考える前提としての情報リテラシーについて	
	12	エシカルについて	
	13	エネルギー問題について	
	14	「世界を変えるデザイン」について	
	15	エコとものづくりについて	
評 価 方 法	中間と最終、2 回課すレポート課題の評価。課題を全て提出しない場合や、出席が 2/3 に満たない場合は E 評価となる。他の受講生に迷惑をかける様な授業態度は評価を減点することもあるので注意すること。		
教 科 書			
参 考 図 書	適時指示する。		
特 記 事 項			

イラストレーション論 *Introduction to Theory of Illustration*

2 単位

大 学 名	神戸芸術工科大学	担 当 教 員 氏 名	寺門 孝之 教授 久本 直子 准教授
開 講 期 間	後期 (9/26 ～ 1/23)	開 講 曜 日 ・ 時 間	木曜 1 限 (9:00 ～ 10:30)
履 修 条 件	2 年生以上	募 集 人 員	5 名程度
教 室	7101 教室	連 絡 先	

授 業 形 態	対面
授 業 方 法	講義
学 習 目 標	イラストレーション及び絵本の歴史的背景から現在における展開について広範な知識を得る。特に現在の日本におけるイラストレーション、絵本の諸傾向について興味を喚起され、その多様性を歴史的に理解するための視点を自ら設定できるようになる。職業としてのイラストレーター、絵本作家の仕事の内容について具体的な知見を得る。
授 業 概 要	ビジュアルコミュニケーションにおいて重要な役割を果たす「イラストレーション」の歴史、世界及び日本における諸傾向について、画像、映像あるいは現物資料を紹介し、論ずる。また、絵本についても多彩な視点から概観する。
授業時間学習以外の学習 (準備学習含む)	イラストレーション・絵本に日頃から関心を持ち、その収集・調査を怠らないでいることを推奨する。
授 業 計 画	1 オリエンテーション / イラストレーション概論 (寺門)
	2 イラストレーションの場所 (寺門)
	3 日本のイラストレーションの基盤 浮世絵 (1) (寺門)
	4 日本のイラストレーションの基盤 / 浮世絵 (2) (寺門)
	5 目の表現の多様性とその変遷 (1) (寺門)
	6 目の表現の多様性とその変遷 (2) (寺門)
	7 物語とイラストレーション / 不思議の国のアリス・桃太郎 (寺門)
	8 絵本の現在とその存在について (今売れている絵本とロングセラーの絵本) (久本)
	9 絵本は誰に何を与え 何のために見るのか、そして描かれるのか (久本)
	10 絵本制作のプロセス 登場人物、舞台、展開 制作 対象年齢について (久本)
	11 絵本一考察 (1) ことばの力 読み聞かせ (久本)
	12 絵本一考察 (2) 絵の力・文字の力 (久本)
	13 絵の効用 / 神戸とイラストレーション (寺門)
	14 アートとイラストレーション / ヘタウマとスーパーリアル (寺門)
	15 イラストレーションとデザイン / 琳派・文人画と現代日本のイラストレーション (寺門)

※各回の内容・順序は必要に応じて変更されることがある。
事前に授業、Teams または学科棟 1 階の掲示板上で告知する。

評 価 方 法	授業の各回に「レポート」あるいは「アンケート」の提出を課する。それら提出物 (全 15) の内容を総合的に判断し評価する。提出物が 10 に満たない場合は E 評価となる。
教 科 書	適宜にプリントを配布する。
参 考 図 書	その都度紹介・指示をする。
特 記 事 項	

まんがメディア史 *Cultural History of Manga Media*

2 単位

大 学 名	神戸芸術工科大学	担 当 教 員 氏 名	川中 利満 教授
開 講 期 間	後期 (9/26 ～ 1/23)	開 講 曜 日 ・ 時 間	木曜 2 限 (10:40 ～ 12:10)
履 修 条 件	2 年生以上	募 集 人 員	10 名程度
教 室	1106 教室	連 絡 先	

授 業 形 態	対面
授 業 方 法	講義
学 習 目 標	講義を通じてまんが・アニメなどの文化と、現代の社会や歴史との関係性を理解する。 また、それらを知ることにより創作のバックボーンとなる文化的リテラシーを身につける。
授 業 概 要	「まんが」とされるジャンルは一体どこから来て、どのように受容され、どこに向かおうとしているのかを、現在および過去の代表作からひも解く。 また、近縁ジャンルである映画・アニメ・ゲーム等も本講義中に言及する。 これにより、表現が社会状況と不可分の関係であることを知り、作品の成立背景やその与えた影響を考える。 # リテラシー # 資料分析
授業時間学習以外の学習 (準備学習含む)	
授 業 計 画	1 現代漫画の誕生：「鉄腕アトム」
	2 青年向け漫画の台頭と劇画：「ルパン三世」
	3 少女漫画表舞台へ：「エースをねらえ！」
	4 漫画とキャラクター & ホビー：「仮面ライダー」
	5 児童向け漫画とメディアミックス：「ドラえもん」
	6 まんがニューウェーブ：「AKIRA」
	7 週刊少年ジャンプ黄金時代：「ドラゴンボール」
	8 戦う少女漫画：「美少女戦士セーラームーン」
	9 オタクの台頭：「新世紀エヴァンゲリオン」
	10 萌え文化と BL：「あずまんが」
	11 少年から少女へ：「鋼の錬金術師」
	12 00 年代のリアル：「進撃の巨人」
	13 震災後のセカイへ：「魔法少女まどか☆マギカ」
	14 海外の漫画：アメコミとバンド・デシネ
	15 最新動向

評 価 方 法	1) 期末のレポート課題で評価する。提出 70%、内容 30% での評価とする。 課題を提出しない場合は E 評価とする。 2) 出席回数が 10 回に満たない場合は E 評価となる。
教 科 書	要点を記したレジュメを授業毎に用意する。
参 考 図 書	適宜授業内で紹介するが、8 号棟内の書架や図書館等を利用して、1950 年代以降の代表的なまんが作品に積極的に目を通しておくこと。
特 記 事 項	

西洋美術史 2 *History of Western Art*

2 単位

大 学 名	神戸芸術工科大学	担 当 教 員 氏 名	岡本 弘毅 教授
開 講 期 間	後期 (9/20 ～ 1/24)	開 講 曜 日 ・ 時 間	金曜 3 限 (13:00 ～ 14:30)
履 修 条 件	2 年生以上	募 集 人 員	5 名程度
教 室	吉武記念ホール	連 絡 先	

授 業 形 態	対面
授 業 方 法	講義
学 習 目 標	【授業の目的】 西洋文化の精華として現代人の美意識にも大きな影響を与える西洋美術史の基本的知識を習得すると同時に、美術やデザインにおける教育活動や作品制作のヒントを得る。 【到達目標】 1. 様々な時代の作品に触れ、西洋美術史の大まかな流れを把握することにより、大学生にふさわしい知識や将来社会人として必要となる教養を身につける。 2. 作品の背後に存在する社会・文化・思想などのコンテキストを理解する。
授 業 概 要	西洋美術史の基本的な時代区分に従い、代表的な様式や具体的な作例を各時代の社会的・文化的背景と関連付けながら紹介する。西洋美術のルーツである古代の美術に始まり、キリスト教化した中世美術を経て、ルネサンス期以降の近世美術から近代美術、20 世紀美術へと至る流れを概観する。特に現代人の美意識と直接結びつきの強い近世美術以降について、絵画を中心に詳しく取り上げるが、彫刻、建築、版画などについても適宜触れることとする。
授業時間学習以外の学習 (準備学習含む)	各回のテーマについて、各自インターネットや書籍で調べるなどの事前学習を行う:2 時間 授業で興味を持ったテーマについて、さらに自分で掘り下げて調べるなどの事後学習を行う:2 時間 その他、レポート作成の資料研究や展覧会などでの実作品の鑑賞など、コロナ感染予防に十分留意した上で積極的に行うこと。
授 業 計 画	1 授業ガイダンス 2 古代美術 1 (エジプト、メソポタミア、エーゲ海) 3 古代美術 2 (ギリシャ) 4 古代美術 3 (ローマ) 5 中世美術 1 (ビザンチン、初期中世ヨーロッパ、ロマネスク) 6 中世美術 2 (ゴシック) 7 近世美術 1 (イタリア・ルネサンス 1) 8 近世美術 2 (イタリア・ルネサンス 2) 9 近世美術 3 (イタリア・ルネサンス 3、北方ルネサンス 1) 10 近世美術 4 (北方ルネサンス 2、バロック、ロココ) 11 近代美術 1 (新古典主義、ロマン主義) 12 近代美術 2 (写実主義、自然主義、印象主義) 13 近代美術 3 (ポスト印象主義、象徴主義) 14 20 世紀美術 1 (フォーヴィスム、キュビズム、シュルレアリスム等) 15 20 世紀美術 2 (抽象表現主義、ミニマリズム、ポップアート等)
評 価 方 法	小レポート×3 回程度:50%、期末レポート:50% として評価。
教 科 書	必要に応じてプリントを配布する。
参 考 図 書	高階秀爾 監修、『カラー版 西洋美術史』、2002 年、美術出版社 エルンスト・H・ゴンブリッチ 著、天野衛 他 訳、『美術の物語』、2019 年、河出書房新社
特 記 事 項	授業の進行状況や新しいトピックの挿入などに応じ、授業計画に多少の変更の可能性はある。 上記の評価方法に基づく評価にかかわらず、6 回以上の無断欠席は E 評価とする。

英語学概論 2 Introduction to Studies in English 2

2 単位

大 学 名	神戸市外国語大学	担 当 教 員 氏 名	山口 治彦 教授 本多 啓 教授
開 講 期 間	前期 (4/8 ~ 8/2)	開 講 曜 日・時 間	火曜 4 限 (14:25 ~ 15:55)
履 修 条 件		募 集 人 員	10 名程度
教 室	未定	連 絡 先	Tel: 078-794-8133 Email: kyomu@office.kobe-cufs.ac.jp (教務入試班)

授 業 形 態	対面、非対面授業併用型
授 業 方 法	講義
学 習 目 標	医療通訳の基本、医療制度 や現状、医療英語などを理解し、基本的な医療通訳ができるようになる。

授 業 概 要	英語学概論とは、英語を研究する学問としての英語学の各分野を大まかに見通すことで、「英語とはどのような言語か」「英語学とはどういう学問か」ということについての全体像を作ること为目标とした、入門的な授業です。 2024 年度開講の「英語学概論 2」は、英語学の諸分野のうち、言葉の意味という観点から英語の特徴を考える意味論、実際のコミュニケーションの現場における言葉の働きという観点から英語の特徴を明らかにする語用論を中心とした内容になります。 This is an introductory course on English linguistics. This year we will talk about semantics (the study of linguistic meaning) and pragmatics (the study of language use in communicative contexts).
---------	---

授業時間学習以外の学習 (準備学習含む)	事前に指定図書の授業に関連する部分を読んでおくこと。 事後には配布資料、ノート、指定図書の該当部分などを見直して、十分な復習を行うこと。
----------------------	--

授 業 計 画	1	授業案内。英語学についての全体的な解説
	2	意味論 (1) 意味とは何 (でない) か – 認知意味論の立場から –
	3	意味論 (2) 多義
	4	意味論 (3) 日常言語の中の比喻
	5	意味論 (4) 英語の法助動詞
	6	意味論 (5) メタファーなどから考える英語の句動詞などの多義性
	7	意味論 (6) 認知意味論は何を目指す学問か
	8	語用論 (1) : ことばとコンテキストの親密な関係
	9	語用論 (2) : 推論を生む指針 (協調原則と会話の格率)
	10	語用論 (3) : ふまじめなことば (ジョークと会話の格率)
	11	談話分析 (1) : 翻訳が映す社会の姿 [1] (英語になった manga と anime)
	12	談話分析 (2) : 翻訳が映す社会の姿 [2] (manga におけるオノマトペの翻訳)
	13	談話分析 (3) : 翻訳が映す社会の姿 [3] (『NARUTO』の性的・暴力的表現)
	14	言語学の地図とコンパス
	15	期末試験

評 価 方 法	毎回の授業への取組みと、各担当教員の課す課題 (中間・期末試験またはレポート) によります。
---------	--

教 科 書	資料を配布しますので、教科書は使用しません。
-------	------------------------

指 定 図 書	(意味論)『ファンダメンタル認知言語学』(野村益寛、ひつじ書房、2014) 『英単語の世界---多義語と意味変化から見る』(寺澤盾、中公新書、2016) (語用論)『語用論研究法ガイドブック』(加藤重広・滝浦真人、ひつじ書房、2016) これ以外の本は授業中に紹介します。
---------	--

参 考 図 書	中村安秀・南谷かおり 編 (2013)『医療通訳士という仕事』 大阪大学出版会村松紀子・連利博・阿部裕 編著 (2015)『実践医療通訳』松柏社
---------	--

特 記 事 項	第 1 回から第 7 回までの授業は、オンラインで実施する予定です。 途中で休むと次回以降の授業を理解することが難しくなる場合がありますので、できるだけ欠席することなく毎回出席してください。
---------	---

英米文学・文化研究入門

Introduction to Anglo/American Literature and Culture

2 単位

大 学 名	神戸市外国語大学	担 当 教 員 氏 名	井上 詩歩子 講師 他
開 講 期 間	前期 (4/8 ～ 8/2)	開 講 曜 日・時 間	火曜 5 限 (16:05 ～ 17:35)
履 修 条 件	昨年以前に授業して単位を得た人は受講不可。	募 集 人 員	10 名程度
教 室	未定	連 絡 先	Tel: 078-794-8133 Email: kyomu@office.kobe-cufs.ac.jp (教務入試班)

授 業 形 態	対面
授 業 方 法	講義
学 習 目 標	
授 業 概 要	神戸市外国語大学英米学科文学文化系教員によるリレー講座です。同じテーマで毎回専門の異なる教員がそれぞれの専門分野の視点から講じます。今年のテーマは「英米の名著を読む」です。英米の名著を紹介しながら、文学、文化、歴史を読み解いていきます。 This is a relay course taught by faculty members in the Department of English Studies. Each week, a different instructor teaches a topic focusing on his or her special field. This year's topic is "Reading Masterpieces." Students will be introduced to various "masterpieces" in English from literary, cultural, or historical perspectives.
授業時間学習以外の学習 (準備学習含む)	事前学習: レポート作成に向けて講義内容を復習 事後学習: レポート作成に向けて講義内容を整理
授 業 計 画	1 (4/09) イントロダクション (井上詩歩子)
	2 (4/16) シェイクスピアにおける悪党 I: 『リチャード三世』(エグリントンみか)
	3 (4/23) シェイクスピアにおける悪党 II: 『マクベス』(エグリントンみか)
	4 (5/07) Jack Kerouac and On the Road (Matthew Theado, Typewriters and Roadmaps)
	5 (5/14) Record Players and 1960s Protest Songs (Matthew Theado)
	6 (5/21) "Some Of Us Had Been Threatening Our Friend Colby" by Donald Barthelme (Henry Atmore)
	7 (5/28) "The Whitsun Weddings" by Philip Larkin (Henry Atmore)
	8 (6/04) William Wordsworth, The Prelude (1805) を読む (吉川朗子)
	(6/11) レポート提出期限 (1 回目) (First Essay Submission)
	9 (6/11) 「男」という牢獄—Evelyn Waugh の Decline and Fall を読む (大西寿明)
	10 (6/18) Early film and sound experiments (Andrée Lafontaine)
	11 (6/25) Alfred Hitchcock, master of suspense (Andrée Lafontaine)
	12 (7/02) Sylvia Plath, Ariel (1965) を読む (井上詩歩子)
	13 (7/09) Elizabeth Bishop の詩における自然 (井上詩歩子)
	14 (7/14) J. S. ミル、『自伝』を読む (光永雅明)
	15 (7/23) 欽定訳聖書と英米詩 (西川健誠)
	(7/30) レポート提出期限 (2 回目) (Second Essay Submission)
評 価 方 法	前半・後半それぞれレポートを提出。期日厳守。出席重視。
教 科 書	各教員がプリント等を授業の時に提供する。
参 考 図 書	講義内で紹介する。

特 記 事 項	* この授業は前半と後半に分かれています。 * 前半・後半でそれぞれレポートを提出してもらいます。 それぞれの提出期限を厳守してください。 * レポートの内容については各教員から説明があります。 * 前半と後半のいずれかにおいて3回以上欠席した学生は評価の対象とならないので 注意してください。（例えば、前半で3回欠席した学生は後半の出席率に関係なく落第。 前半で無欠席でも、後半で3回欠席した場合は同じく落第） * なお、都合により講義の順番や講師が変更される場合もあります。 * 授業はオンラインで提供されることもあります。
----------------	---

スポーツ文化論 1 *Sport Culture 1*

2 単位

大 学 名	神戸市外国語大学	担 当 教 員 氏 名	常行 泰子 准教授
開 講 期 間	前期 (4/8 ～ 8/2)	開 講 曜 日・時 間	火曜 5 限 (16:05 ～ 17:35)
履 修 条 件		募 集 人 員	10 名程度
教 室	未定	連 絡 先	Tel: 078-794-8133 Email: kyomu@office.kobe-cufs.ac.jp (教務入試班)

授 業 形 態	対面
授 業 方 法	講義
学 習 目 標	医療通訳の基本、医療制度 や現状、医療英語などを理解し、基本的な医療通訳ができるようになる。
授 業 概 要	本授業は、“グローバル”な視点で「する・みる・ささえる」スポーツと運動、健康づくりに ついて考えます。 a) スポーツ文化についての基礎的な事項を理解できる。 b) スポーツと社会の関連について関心を持ち、分析する。 In this class, we consider exercise, sports, and health promotion from a “global” perspective focusing on "doing, watching, and supporting". a) To be able to understand the basics of sports culture. b) To be able to be interested in and analyze the relationship between sports and society.
授業時間学習以外の 学習（準備学習含む）	指定図書を読むなど、ヘルシーエイジングについて学習しておいてください。
授 業 計 画	1 オリエンテーション
	2 現代社会とスポーツ
	3 スポーツ文化とは
	4 スポーツと多文化共生
	5 スポーツ振興とまちづくり政策
	6 スポーツと開発
	7 日本と諸外国におけるスポーツの国際比較
	8 アジアにおけるスポーツ文化
	9 北米におけるスポーツ文化
	10 オセアニアにおけるスポーツ文化
	11 ヨーロッパのスポーツ文化
	12 北欧の教育とスポーツ文化
	13 その他の地域のスポーツ文化
	14 プレゼンテーション
	15 まとめ

評 価 方 法	出席状況・フィールドワーク 60%、提出物・最終課題 40%
教 科 書	適宜プリントを配布します。
指 定 図 書	教育とヘルシーエイジング-持続可能な社会の実現を目指して- (常行泰子・柴英里) 晃洋書房
特 記 事 項	対面による講義を予定していますが、オンライン授業や集中授業等を実施する場合があります。 調査やグループワーク、地域・学校・メディア等と連携する場合もあり、日程調整が各自で必要 となり、積極性・主体性が求められます。 詳細は第 1 回目オリエンテーションにて説明します。ゲストスピーカーによる講義を予定してい ます。フィールドワークの日程調整は各自で行う必要があります。

ヨーロッパ地域論入門 *Introduction to Area Studies of Europe*

2 単位

大 学 名	神戸市外国語大学	担 当 教 員 氏 名	並河 葉子 教授
開 講 期 間	前期 (4/8 ～ 8/2)	開 講 曜 日・時 間	水曜 6 限 (17:50 ～ 19:20)
履 修 条 件	「ヨーロッパ地域論」と合わせて履修することが望ましい。	募 集 人 員	5 名程度
教 室	未定	連 絡 先	Tel: 078-794-8133 Email: kyomu@office.kobe-cufs.ac.jp (教務入試班)

授 業 形 態	対面授業		
授 業 方 法	講義		
学 習 目 標			
授 業 概 要	EU 拡大が進展しつつあるヨーロッパについて、地域としてのまとまりが形成されてきた歴史的背景と、域内の多様性について考える。 To understand the historical background of the emergence of the idea of 'Europe' as one community, and to consider the uniformity and the diversity of this area from various perspective.		
授業時間学習以外の学習（準備学習含む）	関連図書として示す文献などについて、目を通すこと。 積極的に関連内容について自習を進めること。 授業内容について事後に復習すること。		
授 業 計 画	1	ガイダンス	
	2	古地図に見るヨーロッパ	
	3	ヨーロッパを考える意味	
	4	ヨーロッパとは何か：地理学的な指標と歴史学的指標	
	5	古代ギリシャとローマ	
	6	ゲルマンとローマ	
	7	観地中海世界の解体とヨーロッパ世界の成立	
	8	キリスト教	
	9	東ヨーロッパと西ヨーロッパ	
	10	ヨーロッパの農業と食生活	
	11	ヨーロッパの人口動態	
	12	ヨーロッパ中世から近代へ	
	13	ヨーロッパの家族	
	14	まとめ	
	15	試験	
評 価 方 法	試験によって評価する。		
教 科 書	特に指定しないが、随時ハンドアウトを配布する。		
参 考 図 書	特に指定なし。 関連図書を授業の中で紹介する。		
特 記 事 項			

スポーツ文化論 2 *Sport Culture 2*

2 単位

大 学 名	神戸市外国語大学	担 当 教 員 氏 名	常行 泰子 准教授
開 講 期 間	後期 (9/1 ～ 2/7)	開 講 曜 日・時 間	火曜 5 限 (16:05 ～ 17:35)
履 修 条 件		募 集 人 員	10 名程度
教 室	未定	連 絡 先	Tel: 078-794-8133 Email: kyomu@office.kobe-cufs.ac.jp (教務入試班)

授 業 形 態	対面
授 業 方 法	講義
学 習 目 標	医療通訳の基本、医療制度 や現状、医療英語などを理解し、基本的な医療通訳ができるようになる。
授 業 概 要	本授業は、“グローバル”な視点で「する・みる・ささえる」スポーツと運動、健康づくりに ついて考えます。 a) スポーツ文化についての基礎的な事項を理解できる。 b) スポーツと社会の関連について関心を持ち、分析する。 In this class, we consider exercise, sports, and health promotion from a “global” perspective focusing on “doing, watching, and supporting”. a) To be able to understand the basics of sports culture. b) To be able to be interested in and analyze the relationship between sports and society.
授業時間学習以外の 学習（準備学習含む）	指定図書を読むなど、ヘルシーエイジングについて学習しておいてください。
授 業 計 画	1 オリエンテーション
	2 近代・現代社会とスポーツ
	3 スポーツ文化と歴史
	4 スポーツ・フォー・オールとは
	5 地域振興の SWOT 分析
	6 子どものスポーツ活動
	7 障害児・者の運動・スポーツ
	8 高齢者の運動・スポーツ
	9 健康づくりの世界的潮流
	10 フィットネスとスポーツ文化
	11 プログラム開発
	12 運動・スポーツの動機づけ
	13 行動変容・モニタリング調査
	14 プレゼンテーション
	15 まとめ

評 価 方 法	出席状況・フィールドワーク 60%、提出物・最終課題 40%
教 科 書	適宜プリントを配布します。
指 定 図 書	教育とヘルシーエイジング-持続可能な社会の実現を目指して- (常行泰子・柴英里) 晃洋書房
参 考 図 書	中村安秀・南谷かおり 編 (2013)『医療通訳士という仕事』 大阪大学出版会村松紀子・連利博・阿部裕 編著 (2015)『実践医療通訳』松柏社
特 記 事 項	対面による講義を予定していますが、オンライン授業集中授業等を実施する場合があります。調 査やグループワーク、地域・学校・メディア等と連携する場合もあり、日程調整が必要となり、 積極性・主体性が求められます。 詳細は第 1 回目オリエンテーションにて説明します。ゲストスピーカーによる講義を予定してい ます。フィールドワークの日程調整は各自で行ってください。

ヨーロッパ地域論 *Area Studies of Europe*

2 単位

大 学 名	神戸市外国語大学	担 当 教 員 氏 名	並河 葉子 教授
開 講 期 間	後期 (9/1 ~ 2/7)	開 講 曜 日・時 間	水曜 (17:50 ~ 19:20)
履 修 条 件	「ヨーロッパ地域論入門」と合わせて履修することが望ましい。	募 集 人 員	5 名程度
教 室	未定	連 絡 先	Tel: 078-794-8133 Email: kyomu@office.kobe-cufs.ac.jp (教務入試班)

授 業 形 態	対面授業		
授 業 方 法	講義		
学 習 目 標			
授 業 概 要	ヨーロッパの近代が形成される 16 世紀以後、国家を超えた統合を目指す 20 世紀後半以後の EU 設立までの動きを検証し、近代の国際関係の基礎となってきた「ナショナリズム」をヨーロッパは今後どうとらえようとしているのか考える。 Analyse the various family patterns and their influence on the each region in Europe		
授業時間学習以外の学習（準備学習含む）	関連図書として示す文献などについて、目を通すこと。 積極的に関連内容について自習を進めること。 授業内容について事後に復習すること。		
授 業 計 画	1	ガイダンス	
	2	ヨーロッパの多様性：家族システムの多様性	
	3	識字率の推移	
	4	家族システムと人口動態	
	5	ヨーロッパ近代社会の特色① 近代的諸概念の生成	
	6	ヨーロッパ近代社会の特色② 大衆消費社会	
	7	非ヨーロッパ世界とのかかわり	
	8	ジェンダー、クラス、人種	
	9	世俗化、自由主義	
	10	社会保障の多様性と家族	
	11	福祉国家が成立するまで	
	12	福祉国家の成立	
	13	大衆教育の時代	
	14	まとめ	
	15	試験	
評 価 方 法	試験によって評価する。		
教 科 書	特に指定しないが、随時ハンドアウトを配布する。		
参 考 図 書	特に指定なし。 関連図書を授業の中で紹介する。		
特 記 事 項			

医療通訳・コーディネーター入門 *Medical Interpreter and Coordinator* 2単位

大 学 名	神戸市外国語大学	担 当 教 員 氏 名	畑上 雅朗 特任准教授 他
開 講 期 間	後期 (9/25 ～ 1/29)	開 講 曜 日・時 間	水曜 6 限 (18:20 ～ 19:50)
履 修 条 件		募 集 人 員	10 名程度
教 室	未定	連 絡 先	Tel: 078-794-8133 Email: kyomu@office.kobe-cufs.ac.jp (教務入試班)

授 業 形 態	対面
授 業 方 法	講義
学 習 目 標	医療通訳の基本、医療制度 や現状、医療英語などを理解し、基本的な医療通訳ができるようになる。
授 業 概 要	神戸市外国語大学と神戸市看護大学が協力して実施するもので、語学を学ぶ人、看護学・医学を学ぶ人の接点となるユニークな講座。将来医療通訳として活躍してみたい人、コーディネーターを志したい人、この分野に興味を持つすべての人のための入門講座。
授業時間学習以外の学習 (準備学習含む)	事前学習: レポート作成に向けて講義内容を復習 事後学習: レポート作成に向けて講義内容を整理
授 業 計 画	1 (09/25) オリエンテーション: 畑上 雅朗 神戸市外国語大学
	2 (10/02) 医療通訳の現状: 庵原 典子 医療通訳研究会 (MEDINT)
	3 (10/09) 医療制度: 益 加代子 大阪公立大学
	4 (10/16) 外国人への感染症対策と保健所: 保健師 山下 正 神戸市看護大学
	5 (10/23) 母子保健 (妊娠・出産・育児): 嶋澤 恭子 大手前大学
	6 (10/30) 演習 1 (スペイン語): 松村 太 バイエル薬品株式会社・医師
	7 (11/06) 演習 2 (英語): 松岡 綾子 英語医療通訳者
	8 (11/13) 神戸における医療通訳: 山口 まどか 多言語センター FACIL
	9 (11/20) 医療英語: 川越 栄子 滋慶医療科学大学
	10 (11/27) 海外医療の現場から: 畑上 雅朗 神戸市外国語大学
	11 (12/04) 演習 3 (中国語): 入江 沢竜 中国語通訳者
	12 (12/11) 演習 4 (ロシア語): エレナ・バイビコワ 神戸市外国語大学
	13 (01/15) チーム医療の中の通訳者: 新垣 智子 りんくう総合医療センター
	14 (01/22) 医療通訳におけるノートテイキング (メモ取り): 大西 亮平 英語通訳者
	15 (01/29) まとめ: 畑上 雅朗 神戸市外国語大学

評 価 方 法	期末レポートが中心で、出席状況を加味する場合がある。
教 科 書	指定しない。プリントを配布する。
参 考 図 書	中村安秀・南谷かおり 編 (2013)『医療通訳士という仕事』 大阪大学出版会村松紀子・連利博・阿部裕 編著 (2015)『実践医療通訳』松柏社
特 記 事 項	* この授業は前半と後半に分かれています。 * 前半・後半でそれぞれレポートを提出してもらいます。それぞれの提出期限を厳守してください。 * レポートの内容については各教員から説明があります。 * 前半と後半のいずれかにおいて3回以上欠席した学生は評価の対象とならないので注意してください。(例えば、前半で3回欠席した学生は後半の出席率に関係なく落第。前半で無欠席でも、後半で3回欠席した場合は同じく落第) * なお、都合により講義の順番や講師が変更される場合もあります。 * 授業はオンラインで提供されることもあります。

大 学 名	兵庫県立大学	担 当 教 員 氏 名	田中 隆 教授
開 講 期 間	前期 (4/8 ～ 8/5)	開 講 曜 日 ・ 時 間	月曜 5 限 (16:20 ～ 17:50)
履 修 条 件		募 集 人 員	若干名
教 室	神戸商科キャンパス 教育棟Ⅱ C101	連 絡 先	t-tanaka@em.u-hyogo.ac.jp

授 業 形 態	対面授業		
授 業 方 法	講義		
学 習 目 標	【講義目的】 本講義の目的は、多様化・巨大化するリスクへの主要なリスク処理手段である保険について、保険理論を踏まえ、保険制度等との関連から、体系的に解明することである。さらに保険理論と保険制度を踏まえた保険について知識を習得するとともに、損保における再保険や主要な保険、保険制度の現状、生命保険、第三分野の保険等についての解説から、現在の保険に関する知識を習得することである。 【到達目標】 本講義の到達目標は、リスクや保険について、保険理論・保険制度等を踏まえて、体系的・総合的な理解を可能とすることである。さらに、損害保険や生命保険等に関する解説から、現在までの保険に関する知識について、適切な水準で獲得することである。		
授 業 概 要	本講義では、リスクと保険全般に関する理論について講義を行い、保険制度や保険会社の企業形態等について解説を行う。また損害保険における再保険、自動車保険、生命保険と生命保険商品、第三分野の保険等について解説を行う。また下記のように、外部講師による損害保険、生命保険・生活保障に関する講義を予定している。 なお、講義形式で授業を行う。不定期に出席をとる。		
授業時間学習以外の学習 (準備学習含む)	【予習】授業の準備として、事前配布資料等の確認、前回講義資料の読み直し等 (20h)。 【復習】授業後の確認として、講義後の資料等の読み直し、ノート整理等 (20h)。		
授 業 計 画	1	ガイダンス (講義計画、成績評価基準等の説明)、リスクと社会	
	2	リスクについて	
	3	保険の歴史と特徴	
	4	保険技術と保険経営: 保険の技術的仕組み、保険リスク、保険経営において等	
	5	保険サービスとその特質に関して: 保険販売における特性、情報の非対称性等に関して	
	6	保険の分類について	
	7	保険契約について: 損害保険、生命保険、消費者に関する観点から	
	8	損害保険における再保険について	
	9	中間試験、損害保険における主要な保険 (自動車保険を中心に)	
	10	外部講師による損害保険、生命保険・生活保障に関する講義 (予定)	
	11	現在における保険制度: 現在までの動向から近年の動向を加えて	
	12	保険会社における金融: 生命保険会社を中心に	
	13	保険会社の企業形態等と保険経営: 相互会社、近年動向、ロイズ等	
	14	生命保険と主要な生命保険商品: 従来のな生保商品から近年の動向等を加えて	
	15	第三分野等の保険: 医療保険、傷害保険等	
	16	評価 (到達度の確認)	

評価方法	【成績評価の基準】 本講義の内容を理解し、正確で論理的に記述・説明ができる者に単位を授与する。 評価基準については、以下の通りである。 S. 非常に高い専門的知識の習得や関連する思考力を、中間試験・定期試験等で示す。 A. 高い専門的知識の習得や関連する思考力を、中間試験・定期試験等で示す。 B. 平均的な専門的知識の習得や関連する思考力を、中間試験・定期試験等で示す。 C. 最低限の専門的知識の習得や関連する思考力を、中間試験・定期試験等で示す。 【成績評価の方法】 平常点（含受講態度、積極的な質問等）10%、中間試験 40%、定期試験 50% を基準とし、総合的に評価する。
教科書	テキストは使用せずに、それに準ずるプリントを配付する予定である。
参考図書	授業において、その文献・資料が学術情報館にあるのかも含めて、随時指示する。
特記事項	

健康・スポーツマネジメント論

Health and Sports Management I

2 単位

大 学 名	兵庫県立大学	担 当 教 員 氏 名	松村 浩貴 教授
開 講 期 間	前期 (4/11 ~ 8/1)	開 講 曜 日・時 間	木曜 5 限 (16:20 ~ 17:50)
履 修 条 件		募 集 人 員	若干名
教 室	神戸商科キャンパス 教育棟II	連 絡 先	kouki@em.u-hyogo.ac.jp

授 業 形 態	対面		
授 業 方 法	講義		
学 習 目 標	【講義目的】 スポーツ産業をビジネス的な側面から考える。スポーツというヒトが生活していく上で必ずしも必要でないものを扱った業界が、どのように発展していったのか、そのためにどのようなマネジメントがなされているのかを知ることが目的とする。 【到達目標】 スポーツ産業の現状を理解し、より良く発展するために自分なりの考える力を養うことである。		
授 業 概 要	各種スポーツ産業の歴史の変遷や経営戦略を具体的な例を挙げながら紹介し、発展していった経緯、あるいは問題点について検討していく。		
授業時間学習以外の学習（準備学習含む）	【予習】 授業中に指示する次回のテーマについて、各自事前に調べ準備する（30h）。 【復習】 講義内容の理解を深め定着させるために、配布資料の読み直し（30h）。		
授 業 計 画	1	ガイダンス：本講義の概要を説明	
	2	スポーツ用品産業（1）：ナイキ、アディダスの歴史と経営戦略	
	3	スポーツ用品産業（2）：ミズノ、アシックスの歴史と経営戦略	
	4	スポーツ用品産業（3）：消費者行動1「購買決定プロセス」	
	5	スポーツ用品産業（4）：消費者行動2「ブランドマーケティング」	
	6	スポーツツーリズム（1）：地域観光戦略、なぜスポーツツーリズム？	
	7	スポーツツーリズム（2）：イベントツーリズムとアウトドアツーリズム	
	8	オリンピック（1）：オリンピックの歴史と財源、TOP、スポンサーシップの効果	
	9	オリンピック（2）：アマチュア規定、プロとアマ、オリンピックの問題点とこれから	
	10	スポーツスポンサーシップ（1）：スポンサーシップの種類と効果	
	11	スポーツスポンサーシップ（2）：スポンサーシップの課題とこれから	
	12	プロスポーツ（1）：北米のリーグマネジメント	
	13	プロスポーツ（2）：欧州のリーグマネジメント、Jリーグのマネジメント	
	14	プロスポーツ（3）：チームマネジメント、集客力を上げるには、地域密着	
	15	プロスポーツ（4）：社会貢献活動	
評 価 方 法	【成績評価の基準】 スポーツ産業の歴史と現状を理解し、今後の発展に向けて自分なりに考察できる者に単位を授与する。上記において、知識、思考力、表現力など総合的に判断し、S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）まで成績を与える。 【成績評価の方法】 小テスト＝80%、レポート＝20%を基準に、授業への取り組みなどを含めて、総合的に評価する。		
教 科 書	教科書は使用しない。資料はこちらで配布する。		
参 考 図 書	原田宗彦 編著、「スポーツマーケティング」、大修館書店		
特 記 事 項			

大 学 名	兵庫県立大学	担 当 教 員 氏 名	小宮 一高 教授 藤川 健 准教授 秋山 秀一 教授 上瀬 昭司 教授
開 講 期 間	後期 (10/7 ～ 2/10)	開 講 曜 日・時 間	月曜 5 限 (16:20 ～ 17:50)
履 修 条 件		募 集 人 員	若干名
教 室	神戸商科キャンパス 教育棟 II C101	連 絡 先	代表：小宮一高 komiya@em.u-hyogo.ac.jp

授 業 形 態	対面およびオンライン		
授 業 方 法	講義		
学 習 目 標	【講義目的】 地域社会に密着して事業活動を行なっている「中小企業」や「地域企業」のマネジメント課題について理解を深めることがこの講義の目的です。地域社会の活力向上に向けた方策を考えていく上で、その担い手となる中小企業、地域企業、商店街等が直面している課題を理解することが必要です。この講義では、企業が直面する課題についての具体的事例にも触れながら議論を進めていきます。 【到達目標】 地域社会の活性化に向けた課題を理解し、それらの課題への対応策を中小企業論、マーケティング論、商業・流通論の知見をベースにして実践的に考察し、解答を提示できるようになることが目標です。		
授 業 概 要	第Ⅰ部「地域社会と中小企業」では、地域社会・経済の主な担い手である中小企業の存在について理解を深めます。 第Ⅱ部「地域企業とマーケティング」では、地域企業がマーケティングを行なうために必要な「既存資源の活用」と「他社との協力」について、事例に基づき議論します。 第Ⅲ部「地域とブランド」では、「地域のブランド化」の2つの側面（①地域企業とその製品・サービスのブランド化、②地域自体のブランド化）について、事例に基づき議論します。 第Ⅳ部「商店街の活性化とまちづくり」では、都市と商業との関係や日本のまちづくりに関する法律を概観した上で、活性化に向けた商店街の取り組みを考察します。		
授業時間学習以外の学習（準備学習含む）	復習を中心に学習をしてください。各回の授業内容の復習および課題への対応（20h）、各担当教員ごとの最終レポート作成（4回、40h）。		
授 業 計 画		第Ⅰ部「地域社会と中小企業」（担当：藤川健） （キーワード：中小企業、ベンチャー企業、ソーシャルビジネス）	
	1	大企業、中小企業、ベンチャー企業	
	2	中小企業と大企業の経営上の違い	
	3	中小企業とソーシャルビジネス	
		第Ⅱ部「地域企業とマーケティング」（担当：小宮一高） （キーワード：地域企業、マーケティング、資源、協力）	
	4	マーケティングとは何か	
	5	既存資源を活かす	
	6	他社と協力する	
	7	講演Ⅰ	
		第Ⅲ部「地域とブランド」（担当：秋山秀一） （キーワード：地域企業、ブランド化、地域ブランド）	
	8	ブランドとは何か	
	9	地域企業とブランド化	
	10	地域のブランド化	
	11	講演Ⅱ	

		第IV部「商店街の活性化とまちづくり」(担当:上瀬昭司) (キーワード:商業、商店街、まちづくり)
	12	都市と商業の関係
	13	まちづくり関連法制が果たす役割
	14	地域商業活性化への取り組み
	15	これからの商店街と地域社会

評 価 方 法	地域社会と中小企業、地域企業やその活動（マーケティングやブランド化）との関係、また現在の日本のまちづくりや商店街に関する状況を理解し、地域の課題に対して実践的な解答を与えられるものに、S (90 点以上)、A (80 点以上)、B (70 点以上)、C (60 点以上) による成績評価の上、単位を付与します。成績は、各担当教員ごとの課題およびレポート（各教員ごとに 25 点 ×4 人）によって評価します。
教 科 書	使用しません。
参 考 図 書	授業中に指示します。
特 記 事 項	オンラインで参加する学生は、受講が可能な環境（PC やタブレット、スピーカー等）を整えてください。また、授業開始の前に、接続のためのリンク情報を個別に連絡しますので、注意してください。

大 学 名	流通科学大学	担 当 教 員 氏 名	小笠原 宏 教授
開 講 期 間	前期 (4/9 ～ 7/16)	開 講 曜 日・ 時 間	火曜 3 限 (13:00 ～ 14:30)
履 修 条 件		募 集 人 員	
教 室	3102 教室	連 絡 先	流通科学大学 教務部

授 業 形 態	対面		
授 業 方 法	講義		
学 習 目 標	より実り多い経済生活のためにも個人（家計）の資産運用の必要性は高まっている。合理的な「投資行動」のためには金融証券市場を念頭において、何に投資をするべきか考察し決断するための分析力と決断力を 養うことが重要である。しかし各種金融商品は複雑かつ多様化しており、その中での「最適」選択は難しい。それ故に、効率的な資金運用（投資）を行うために基本的な理論及び手法を学ぶ。		
授 業 概 要	高度化し、複雑化した金融商品及び、金融市場に関する解説する。また現実の動向を、タイムリーな事件、ニュースとからめて解説していく。投資家目線での金融理論、ファイナンス理論を分かり易く解説する。多様な視点も考慮に入れて資産投資運用を自ら行えるようになることを目指す。多様なリスクの現実的な把握と対処法について議論、解説する。合理的な「投資行動」を自ら考えて実行するために役立つ金融証券市場の知識、リスク概念など学び習得したうえで、何に投資をするべきか考察し決断するための分析力と決断力を醸成する。リスクをどうマネージするかも考える。具体的にリスクの把握と設定、そしてそれに対する意識を高めることを目指す。 投資家マインドを理解するように務めることにより、実践的な行動力と決断力が発揮できるようになる。講義内で授業理解度、進捗に応じて 1 ～ 2 のドリル（実験）を行う予定であり、実施の場合は、その結果を簡単なレポートにする（A4 用紙 1 枚程度）予定。各回内		
授業時間学習以外の学習（準備学習含む）	金融、株式市場並びに投資に興味を持つようにしてほしい。日々の金融はじめ経済ニュースに興味をもって欲しい。不明な言葉などは、ネットでかまわないので、自分で調べてみることを強く推奨。その上で質問して欲しい。「価値を増やすという意味での」投資につながる情報に敏感になること。定番定説的なことを説明するような講義でなく、ここでしか聞けない中身の講義をする予定。新しい視点、アプローチを啓蒙するような講義を目指す。教員相互間の双方向の連携という意味から、メールによるコメントや質問など、授業参加度などがあれば加算考慮するので積極的に取り組んでほしい。投資関係の書籍ほかネット記事など自分が興味あるものはどんどん参考にして欲しい。コメントなどは内容的に有用なものは、講義内でも取り上げて補足および解説するので、積極的参加の姿勢を受講生は持ってほしい。		
授 業 計 画	1・2	投機の違い・消費行動と投資行動の違い。投資の奥義伝授（「投資」行動の理論と実践）	
	3・4	リスクの概念。リスクプロファイルの考察。（リスクとは何か）	
	4・5	金融市場の基本的理解。金融機関とのつきあい方。	
	6・7	証券市場の基本的役割。証券会社とのつきあい方。	
	9・10	保険の仕組みと市場 宝くじの仕組み 等	
	11・12	ポートフォリオ理論の基本（分散投資）	
	13・14	不動産投資や無形資産投資 暗号資産（仮想通貨など）とは何か。	
	15	高度な金融派生市場の役割（デリバティブ、FX、CDS など）。フィンテックについて他	

評 価 方 法	コロナ禍緊急対応として、最終試験代わりに、レポート課題になる可能性も考慮。 試験に変更する場合は、試験 60%+ 授業出席（オンデマンド視聴とメールなどで集計把握）30%+ 課題、関係提出など（10%）程度で総合評価
教 科 書	特に指定しない。参考資料などはこちらから適宜配布あるいは講義内で示す
参 考 図 書	講義内で参照および随時示す。
特 記 事 項	講義途上における受講生からの積極的な質問や提案を求める。 それらを積極的に取り上げながら講義を進める予定

大 学 名	流通科学大学	担 当 教 員 氏 名	持田 信治 教授
開 講 期 間	前期 (4/12 ～ 7/23)	開 講 曜 日・時 間	金曜 2 限 (10:40 ～ 12:10)
履 修 条 件	2 年生以上	募 集 人 員	特になし
教 室	2109 教室	連 絡 先	流通科学大学 教務部

授 業 形 態	対面	
授 業 方 法	講義	
学 習 目 標	以下を本講義の学習目標とする。 (1) 工業製品とは何かを説明できるようになる。 (2) 製造業における物とものの違いを説明できるようになる。 (3) 製造業の基本と課題を説明できるようになる。 (4) 今後の製造業の方向と課題について説明できるようになる。	
授 業 概 要	本講義はものの価値を創造するための工業技術に関して理解を深めることを主題とする。更に企業経営や組織行動に従って発生する課題や問題に対する、論理的な思考に基づいた具体的な改善策や解決策の提案ができるようになることである。現代社会は工業製品の利用が不可欠であり、そこで本講義では製造業は人の要求と人の要求を実現する人材と技術があって成り立つことを説明する。更に工業を取り巻く環境は複雑であることを示し、製造業に関する最新技術の幾つかを紹介する。また、物とものの違いや改善についても解説を行い、製造業に興味が湧くように具体的な製品や技術を紹介する。	
授業時間学習以外の学習 (準備学習含む)	講義への積極的な参加を希望する。 講義テーマについての自主学習を期待する。 特に復習については問題意識を持った幅広い自主学習を期待する。	
授 業 計 画	1	製造業とものづくり
	2	工業製品と現代生活
	3	製造業の基本
	4	もの造りの手順
	5	大量生産と受注生産
	6	企業戦略と製造業を取り巻く環境
	7	欧米と日本のものづくりの違い
	8	プロジェクトマネジメントとリスクマネジメント
	9	製造業における品質と課題解決のための方法
	10	インダストリー 4 回 0 までの道のり
	11	技術紹介 (IOT)
	12	技術紹介 (人工知能とロボット)
	13	技術紹介 (エネルギー関連、発電)
	14	技術紹介 (情報通信関連、コンピュータ)
	15	工業技術のまとめ

評 価 方 法	(1) 評価は講義への参加度合いと課題の提出状況により算出する。 (2) 授業参加度と小テストが 50 点、そして試験又は課題を 50 点で評価する。 (3) 課題やコメントについて自主学習が認められる場合には特に評価する。 (4) 授業参加度の確認と小テスト及び課題の提示と回収は RESPON により行う。 ただし、RESPON が使えない場合には別途回答方法を提示する。
教 科 書	必要に応じて、教材をポータルに UP する、又は配布する。
参 考 図 書	参考文献は以下の通り。 「日本発世界技術」溝口敦 (小学館) 「増補版日本の技術は世界一」毎日新聞経済部 (新潮文庫) 「イノベーションと日本経済」後藤晃 (岩波新書 684) 「日本のもの造り哲学」藤本隆宏 (日本経済新聞社) その他は講義の時に示す。

特 記 事 項	問題意識を持って講義に参加すること。また、講師はプロジェクトマネージャとしての実務経験に基づき、製品戦略策定に向けたポイントを解説するため、関連した質問を期待する。
---------	--

大 学 名	流通科学大学	担 当 教 員 氏 名	福田 司文 教授
開 講 期 間	後期 (9/23 ～ 1/14)	開 講 曜 日・時 間	月曜 5 限 (16:20 ～ 17:50)
履 修 条 件	証券に関心があること	募 集 人 員	10 名程度
教 室	5101 教室	連 絡 先	流通科学大学 教務部

授 業 形 態	対面	
授 業 方 法	講義	
学 習 目 標	(1) 企業における株式の役割が理解できるようになる。 (2) 株式が取引される仕組みが理解できるようになる。 (3) 価格変動する証券の性質が理解できるようになる。 (4) 証券を売買する際に参考にすべき指標について理解できるようになる。	
授 業 概 要	現代の証券市場を構成する株式と債券を中心に証券取引の仕組みと証券投資の問題を講義する。証券取引の仕組みは証券の制度面について理解を深めることを目的とし、証券投資は株式や債券を購入する際にどのような点に注目すべきかに、また、株式、債券の評価、分析が重要である点を主に講義する。この 2 側面について統一的な理解が得られるよう基礎概念を中心に講義する。	
授業時間学習以外の学習 (準備学習含む)	重点は復習に置きます。 授業内容の理解を確認するために、練習問題等を課し、復習してもらう。 1 回の授業に対して 4 時間の予習・復習と等を行ってください。	
授 業 計 画	1	導入：証券の役割
	2	経済活動と金融システム
	3	株式の種類、株式売買
	4	株式 上場制度、特徴的な取引 (1)
	5	株式 上場制度、特徴的な取引 (2)
	6	株式の種類と様々な発行方法
	7	財務諸表
	8	財務諸表と投資尺度
	9	株式のリスク
	10	株価の予測 効率的市場仮説の周辺
	11	株価の予測 伝統的な株価予測
	12	債券投資
	13	投資信託の仕組み
	14	投資信託 種類、考え方
	15	まとめ

※ 以上は予定の内容である。受講生の理解力によっては内容を変更する可能性もあることも了承してほしい。
一つのトピックを複数回に分けて授業するので、全部カバーできないかもしれない。

評 価 方 法	期末試験 50%、復習クイズ、宿題課題で 50%。
教 科 書	なし
参 考 図 書	榊原・城下・姜・福田・岡村、『入門証券論』、有斐閣。 川北、『テキスト株式・債券投資』、中央経済社。
特 記 事 項	

大 学 名	流通科学大学	担 当 教 員 氏 名	前川 明 准教授
開 講 期 間	後期 (9/25 ～ 1/8)	開 講 曜 日・時 間	水曜 1 限 (9:00 ～ 10:30)
履 修 条 件	3 年生のみ	募 集 人 員	特になし
教 室	5316 教室	連 絡 先	流通科学大学 教務部

授 業 形 態	対面																														
授 業 方 法	講義																														
学 習 目 標	到達目標は、「なぜ働くのか」「あなたの強み」「あなたにとってよい会社の条件」の問いに、しっかりとした考え方を身につけることである。その上で自己 PR の作成方法と会社選びの基準づくりを学び、総合的な就職力を高めていくことにある。 ・SPI 等の筆記試験対策で得意、不得意な分野を自己評価する。 ・自分の強さ・弱さの分析から自己 PR をまとめる。 ・業界企業を分析し、自己 PR と志望動機につなげていく。 ・就職力を高め、自分の立てた目標設定と就職戦略を策定する。																														
授 業 概 要	3 年生の前期から始まる就職活動に対して、自分の強み・弱みを知ること (自己 PR)。また、働くことの意義 (価値観)、自分にとって良い会社の定義で志望動機を考えること。さらに、自己アピール力、プレゼンテーション力、会話力 (面接・グループディスカッション) を高めるために、実践的な演習を交えて展開する。																														
授業時間学習以外の学習 (準備学習含む)	1. 授業に関連する本や新聞記事や雑誌を読んだり、ニュースをチェックしたりする習慣を日常的に付け、特にキャリア・就職・労働・雇用・ビジネスなどといったキーワードには注目するようにしておく (毎回 1 時間) 2. 授業のなかで紹介した参考図書や参考資料などを読んだり、目を通してをしておく (毎回 30 分) 3. 授業で学んだことの復習や実践 (毎回 30 分) 上記の 1 ～ 3 に加えて、①自己分析 ②業界地図や就職四季報、企業 HP 等での企業研究・仕事研究 ③ SPI などの筆記試験対策 以上①～③について 1 日 1 時間は時間をかけて準備すること。具体的な方法は授業内で紹介します。																														
授 業 計 画	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>イントロダクション:就職環境の現状と課題</td></tr> <tr><td>2</td><td>働くことの意味</td></tr> <tr><td>3</td><td>社会・企業を取り巻く環境</td></tr> <tr><td>4</td><td>企業研究</td></tr> <tr><td>5</td><td>仕事研究</td></tr> <tr><td>6</td><td>自己分析①</td></tr> <tr><td>7</td><td>筆記試験①</td></tr> <tr><td>8</td><td>筆記試験②</td></tr> <tr><td>9</td><td>自己分析②</td></tr> <tr><td>10</td><td>エントリーシート・履歴書①</td></tr> <tr><td>11</td><td>エントリーシート・履歴書②</td></tr> <tr><td>12</td><td>グループディスカッション</td></tr> <tr><td>13</td><td>面接①</td></tr> <tr><td>14</td><td>面接②</td></tr> <tr><td>15</td><td>就職活動の戦略の立て方</td></tr> </table>	1	イントロダクション:就職環境の現状と課題	2	働くことの意味	3	社会・企業を取り巻く環境	4	企業研究	5	仕事研究	6	自己分析①	7	筆記試験①	8	筆記試験②	9	自己分析②	10	エントリーシート・履歴書①	11	エントリーシート・履歴書②	12	グループディスカッション	13	面接①	14	面接②	15	就職活動の戦略の立て方
1	イントロダクション:就職環境の現状と課題																														
2	働くことの意味																														
3	社会・企業を取り巻く環境																														
4	企業研究																														
5	仕事研究																														
6	自己分析①																														
7	筆記試験①																														
8	筆記試験②																														
9	自己分析②																														
10	エントリーシート・履歴書①																														
11	エントリーシート・履歴書②																														
12	グループディスカッション																														
13	面接①																														
14	面接②																														
15	就職活動の戦略の立て方																														
評 価 方 法	・毎回の授業に関連してのミニレポートの作成 (45 点) ・課題レポート (宿題) (10 点) ・企業で求められる基礎能力 (筆記試験) の小テスト (10 点) ・期末レポート (35 点) ※ 期末レポートの提出のない場合は単位認定しませんので、必ず期末レポートの提出をお願いします。 ※ それぞれの課題は期限内の提出、内容、記入量 (指定された文字数以上) を基に評価するため、提出しただけでは評価しませんので、注意してください。																														

教科書	教科書は使用しませんが、毎回の授業に使用する資料は配布します。
参考文献	参考文献は授業内で紹介します。
特記事項	

国際経済論

International Economics Theory

2 単位

大 学 名	流通科学大学	担 当 教 員 氏 名	竹内 信行 准教授
開 講 期 間	後期 (9/26 ～ 1/9)	開 講 曜 日・時 間	木曜日 3 限 (13:00 ～ 14:30)
履 修 条 件		募 集 人 員	160 名程度
教 室	6304 教室	連 絡 先	流通科学大学 教務部

授 業 形 態	対面																														
授 業 方 法	講義																														
学 習 目 標	国際経済学の基本的な知識を習得し、以下の諸点ができるようになることを目指します ・私たちの経済がどのように国際的な経済活動とつながっているのかを知る ・貿易黒字 / 赤字の意味を正しく理解できるようになる ・比較優位の考え方を自分で説明できるようになる ・貿易政策の効果について説明できるようになる																														
授 業 概 要	経済のグローバル化が進展している中、私たちの生活は「国際経済」と切り離して考えることができません。例えば、身の回りの商品の多くが輸入品であったり、急激な円安によって海外ブランド商品が買いづらくなったり、というように私たちの身のまわりには「国際経済」に関する現象が数多く潜んでいます。本講義では、こうした現象を正しく理解するために「なぜ貿易をするのか?」「貿易黒字・赤字の意味とは?」「貿易政策の効果とは?」といった国際経済学の基礎を解説していきます。 取り扱う内容の多くはミクロ経済学やマクロ経済学の知識を基にしており複雑で難解な面もありますが、丁寧な解説を心がけ、楽しく学んでいけることを目標にします。																														
授業時間学習以外の学習 (準備学習含む)	下記を目安に復習を中心に準備学習に取り組んでください。 ・講義内で使用したハンドアウトを用いた学修内容の復習する (1.5 時間程度) ・毎講義後に課される確認問題に取り組む (1 時間程度) ・講義で学んだこと、質問事項などをまとめる (0.5 時間程度) ・確認問題の解答等を用いて復習を行う (1 時間程度)																														
授 業 計 画	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>国際経済と日本 —イントロダクション—</td></tr> <tr><td>2</td><td>マクロ経済学入門 (1) 経済循環図とマクロ経済</td></tr> <tr><td>3</td><td>マクロ経済学入門 (2) 三面等価の原則と IS バランス</td></tr> <tr><td>4</td><td>貿易黒字 / 赤字のさまざまな見方</td></tr> <tr><td>5</td><td>貿易収支と為替レート・物価・交易条件</td></tr> <tr><td>6</td><td>国際貿易論入門 (1) 何を輸出して、何を輸入するのか? —絶対優位説と比較優位説—</td></tr> <tr><td>7</td><td>国際貿易論入門 (2) 比較優位説 (続き)</td></tr> <tr><td>8</td><td>国際貿易論入門 (3) 比較優位説の応用</td></tr> <tr><td>9</td><td>貿易政策入門 (1) さまざまな貿易政策</td></tr> <tr><td>10</td><td>貿易政策入門 (2) 分析のための準備 (需要曲線と消費者余剰)</td></tr> <tr><td>11</td><td>貿易政策入門 (3) 分析のための準備 (供給曲線と生産者余剰)</td></tr> <tr><td>12</td><td>貿易政策入門 (4) 関税と輸入割当の効果</td></tr> <tr><td>13</td><td>貿易政策入門 (5) 生産補助金の効果</td></tr> <tr><td>14</td><td>自由貿易と保護貿易</td></tr> <tr><td>15</td><td>貿易と経済発展</td></tr> </table>	1	国際経済と日本 —イントロダクション—	2	マクロ経済学入門 (1) 経済循環図とマクロ経済	3	マクロ経済学入門 (2) 三面等価の原則と IS バランス	4	貿易黒字 / 赤字のさまざまな見方	5	貿易収支と為替レート・物価・交易条件	6	国際貿易論入門 (1) 何を輸出して、何を輸入するのか? —絶対優位説と比較優位説—	7	国際貿易論入門 (2) 比較優位説 (続き)	8	国際貿易論入門 (3) 比較優位説の応用	9	貿易政策入門 (1) さまざまな貿易政策	10	貿易政策入門 (2) 分析のための準備 (需要曲線と消費者余剰)	11	貿易政策入門 (3) 分析のための準備 (供給曲線と生産者余剰)	12	貿易政策入門 (4) 関税と輸入割当の効果	13	貿易政策入門 (5) 生産補助金の効果	14	自由貿易と保護貿易	15	貿易と経済発展
1	国際経済と日本 —イントロダクション—																														
2	マクロ経済学入門 (1) 経済循環図とマクロ経済																														
3	マクロ経済学入門 (2) 三面等価の原則と IS バランス																														
4	貿易黒字 / 赤字のさまざまな見方																														
5	貿易収支と為替レート・物価・交易条件																														
6	国際貿易論入門 (1) 何を輸出して、何を輸入するのか? —絶対優位説と比較優位説—																														
7	国際貿易論入門 (2) 比較優位説 (続き)																														
8	国際貿易論入門 (3) 比較優位説の応用																														
9	貿易政策入門 (1) さまざまな貿易政策																														
10	貿易政策入門 (2) 分析のための準備 (需要曲線と消費者余剰)																														
11	貿易政策入門 (3) 分析のための準備 (供給曲線と生産者余剰)																														
12	貿易政策入門 (4) 関税と輸入割当の効果																														
13	貿易政策入門 (5) 生産補助金の効果																														
14	自由貿易と保護貿易																														
15	貿易と経済発展																														

※ 講義予定の消化より受講生の理解の方を優先するため、
授業計画どおりに進まない場合もありますが、あらかじめご了承ください

評 価 方 法	・定期試験 : 60% ・平常点 : 40% (毎回の課題の提出状況や、その取り組み具合などで評価)
教 科 書	ハンドアウトを配布するため、教科書は必要ありません。しかしハンドアウトだけでは不安に感じる方は、下記の参考書の中から自分にあったものを参照してください。

参 考 図 書	・石川城太, 椋寛, 菊地徹『国際経済学をつかむ 第2版』有斐閣, 2013年(9784641177192) ・浦田秀次郎, 小川英治, 澤田康幸『はじめて学ぶ国際経済〔新版〕』有斐閣, 2022年(9784641222038) ・伊藤元重『ゼミナール国際経済入門 改訂3版』日本経済新聞社, 2005年(9784532132880)
特 記 事 項	・「パッと聞いて分かる」というよりは「じっくり考えてから分かる」ことが多い学問です。そのため、講義内容の理解には「根気」と「努力」が必要になります ・受講にあたり「経済学入門」もしくは「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」を既習していると、より理解が深まります。しかし、関連する事項は適宜、解説をしますので、これらの科目が既習であることは本講義受講の必須条件ではありません ・講義の内容上、数式や図表を用いることがあります。それにとまって必要となる数学については適宜、説明を行います

経営学入門

Introduction to Business Administration

2 単位

大 学 名	流通科学大学		担 当 教 員 氏 名	今西 珠美 教授
開 講 期 間	後期 (9/27 ～ 1/15)		開 講 曜 日・時 間	金曜 1 限 (9:00 ～ 10:30)
履 修 条 件	1 年生のみ		募 集 人 員	10 名
教 室	2110 教室		連 絡 先	流通科学大学 教務部
授 業 形 態	対面			
授 業 方 法	講義			
学 習 目 標	経営学という学問分野とその研究領域を知り、代表的な経営用語を理解、説明できるようになりましょう。			
授 業 概 要	経営学の基礎知識と主要理論を広く学びます。 経営学の取扱対象と学問体系を理解し、研究領域ごとに事例を通じて基礎知識とその領域を代表する理論を学びます。			
授業時間学習以外の学習（準備学習含む）	1. 授業の予習（約 120 分） 教科書の該当章を読んで授業に臨んでください。 事前に読む章の番号は授業回と同じです。 [予習する教科書の章番号] = [授業回] 例えば、第 3 回目に向けた予習では教科書の第 3 章を読んで授業に備えてください。 ケースで取り上げられている企業・組織についても調べてください。 2. 授業の復習（約 120 分） 授業でキーワードを提示しますので、各々の内容確認を入念に行ってください。 さらに、それらの相互関連性を考えることによってその回の授業全体の理解を深めてください。 「その他」の欄に記載している参考文献の利用も推奨します。 自ら進んで調べ、理解度を高めましょう。			
授 業 計 画	1	企業経営の全体像		
	2	経営学の全体像		
	3	企業と会社		
	4	企業とインプット市場との関わり		
	5	企業とアウトプット市場との関わり		
	6	競争戦略のマネジメント（Part.1）：基本的な考え方		
	7	競争戦略のマネジメント（Part.2）：違いを作る 3 つの基本戦略と仕組みの競争		
	8	多角化戦略のマネジメント		
	9	国際化のマネジメント		
	10	マクロ組織のマネジメント		
	11	ミクロ組織のマネジメント		
	12	キャリアデザイン		
	13	経営学の広がり（Part.1）：ファミリービジネスのマネジメント		
	14	経営学の広がり（Part.2）：病院組織のマネジメント		
	15	経営学入門総括		
評 価 方 法	学習成果（理解度）と学習意欲を評価します。 出欠はとらず、定期試験および取り組む姿勢、理解度を評価します。 定期試験（85%）、学習意欲・学習態度（15%）を予定しています。			
教 科 書	加護野忠男・吉村典久編『1 からの経営学（第 3 版）』碩学舎（中央経済社）、2021 年			
参 考 図 書	伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門（新装版）』日経 BP（日本経済新聞出版本部）、2022 年 上林憲雄・奥林康司・團泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林明『経験から学ぶ経営学入門（第 2 版）』有斐閣（有斐閣ブックス）、2018 年 東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学（第 3 版）』有斐閣（有斐閣ブックス）、2019 年 日本経営協会編『マネジメント検定試験公式テキスト（Ⅲ級）経営学の基本』中央経済社、2023 年 「よくわかる現代経営」編集委員会編『よくわかる現代経営 [第 6 版]』ミネルヴァ書房、2021 年			

特 記 事 項	1. 教科書は必須です。 教科書に沿って授業を進めますので、授業時には手元にあるようにしてください。 2. 本授業では録画、録音、写真撮影を禁止します。
---------	--

大 学 名	神戸市看護大学	担 当 教 員 氏 名	神谷 訓康 准教授
開 講 期 間	前期 (4 月～5 月)	開 講 曜 日・時 間	水曜 3 限 (13:10 ～ 14:40)
履 修 条 件		募 集 人 員	10 名以内
教 室	未定	連 絡 先	gakumu@kobe-ccn.ac.jp

授 業 形 態	対面
授 業 方 法	講義
学 習 目 標	疫学は公衆衛生学や予防医学、EBM（科学的証拠に基づく医療）の基礎となる学問である。人間集団を対象とするすべての保健医療従事者にとっての必須科目である。科学的証拠（エビデンス）に基づくケアにとって、疫学の知識や考え方の修得は重要である。本科目では、疫学の基本的知識と考え方の理解と修得をその目的とする。 【到達目標】 ①疫学上の重要な用語や概念について理解し、説明できる ②主要な疫学指標の計算方法を理解し、実データを基に計算できる ③疫学研究法と調査法の種類や特徴、違いについて理解し、説明できる
授 業 概 要	疫学は人間集団を対象に、疾病の頻度と分布を明らかにするとともに、それらに影響を及ぼす要因を明らかにすることにより、疾病予防と健康増進に向けた有効な対策を立て、対策の評価を行う学問であり、予防医学や公衆衛生の基礎科学であることを理解する。
授業時間学習以外の学習（準備学習含む）	事前に教科書などの該当箇所を読み、概要を理解しておく。講義後は、授業内容をまとめ、知識の確認と必要ならば計算方法などを確認する。
授 業 計 画	1 疫学の定義、割合と率、人口構成の違い
	2 疾病発生の要因、全国と地域の状況
	3 実態調査、実態調査の分析
	4 偶然誤差の分析、要因分析
	5 政策のための分析
	6 事業の評価
	7 感染症、スクリーニング・検診
評 価 方 法	毎回の課題の提出状況 (20%)、学期末試験 (80%)
教 科 書	保健学講座 4 疫学 / 保健統計、尾島俊之・村山洋史編集、メヂカルフレンド、2022
参 考 図 書	医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ (第 4 版)、木原雅子・木原正博翻訳、メディカルサイエンスインターナショナル、2014
特 記 事 項	

大 学 名	神戸市看護大学		担 当 教 員 氏 名	神谷 訓康 准教授
開 講 期 間	前期 (4 月～5 月)		開 講 曜 日・ 時 間	木曜 3 限 (13:10 ～ 14:40)
履 修 条 件			募 集 人 員	10 名以内
教 室			連 絡 先	gakumu@kobe-ccn.ac.jp
授 業 形 態	対面			
授 業 方 法	講義			
学 習 目 標	人間集団を対象とする公衆衛生学は、臨床での個人を対象とする医療とは異なる方法論が必要です。疫学、統計学、保健統計、環境保健、ヘルスプロモーションなど、多くの関連分野の知識と理解が必要になります。本科目では、これらの学問領域の関連を理解し、公衆衛生活動の実践に応用できることを目的とします。 【到達目標】 ①公衆衛生学の実践に必要な方法論や健康指標などについて理解し、説明できる ②健康を取り巻く様々な環境と健康傷害について理解し、説明できる ③公衆衛生活動に必要な知識を理解し、その活動について説明できる			
授 業 概 要	公衆衛生学は社会的存在である個人や人間集団が健康であるようにするための科学的技術や方法論を提供する総合的な応用科学である。人々が健康で快適な生活を送るためには、健康を害する問題が、何を原因として起こっているのかを認識し、それによって受ける人体への影響を除去する方法を考え、健康の保持増進を図るための方策を学ぶ。			
授業時間学習以外の学習 (準備学習含む)	事前学修：講義前に教科書の該当箇所を読み、概要を理解しておく。 事後学修：授業をまとめ、その内容を理解する。			
授 業 計 画	1	衛生学・公衆衛生学序論		
	2	保健統計		
	3	主な疾病の予防、疫学		
	4	環境保健		
	5	産業保健		
	6	保健医療福祉の制度と法規、地域保健と保健行政		
	7	国際保健医療		
評 価 方 法	各授業の課題の提出状況 (20%)、学期末試験 (80%)			
教 科 書	シンプル衛生公衆衛生学 2024、小山洋・辻一郎監修、南江堂、2024			
参 考 図 書	FACTFULNESS10 の思い込みを乗り越え、データをもとに世界を正しく見る習慣、ハンスロスリング・オーラロスリング・アンナロスリングロンランド 著、日経 BP、2019 人口戦略法案、山崎史郎 著、日本経済新聞出版、2021 公衆衛生がみえる 2024-2025、医療情報科学研究所編集、メディックメディア、2024			
特 記 事 項				

医療・看護制度論 *Legislation for Health Care and Nursing*

1 単位

大 学 名	神戸市看護大学	担 当 教 員 氏 名	林 千冬 教授 花井 理紗 助教
開 講 期 間	前期 (4 月～5 月)	開 講 曜 日・時 間	水曜 4 限 (14:50 ～ 16:20)
履 修 条 件		募 集 人 員	5 名以内
教 室	未定	連 絡 先	gakumu@kobe-ccn.ac.jp

授 業 形 態	対面		
授 業 方 法	講義		
学 習 目 標	1. 法の体系を理解し、保健医療福祉にかかわる法制度全体の中での位置づけを含め、看護にかかわる法の種類を説明することができる。 2. 保健師助産師看護師法の歴史と現在の課題について説明し、自分なりの考えを述べることができる。 3. 医療法改正の流れを理解し、現在の医療供給制度における課題について説明し、自分なりの考えを述べることができる。 4. わが国の医療経済のしくみを診療報酬制度とあわせて理解し、現状と課題について説明することができる。		
授 業 概 要	医療・看護のありようを定める法制度について、それらが現実にはどのような影響をもたらしているかに力点を置きつつ解説する。「保健師助産師看護師法」と医療従事者法。「医療法」改正の歴史と今日の課題。社会保険による医療保健制度、診療報酬制度のしくみと、国民医療費をめぐるこれまでの議論を理解し、医療政策について考える基礎を学ぶ。		
授業時間学習以外の学習（準備学習含む）	事前課題：第 1 回目の授業前に、「保健師助産師看護師法」について、テキストならびに法文全文をよく読んで理解しておくこと。		
授 業 計 画	1	医療・看護制度とは何か 法の体系、保健医療福祉にかかわる法制度 さまざまな医療従事者法と「保健師助産師看護師法」の近年の改正動向	
	2・3	医療法 医療法の概要 医療法改正の経過	
	4・5	健康保険法 国民医療費の現状 診療報酬制度とさまざまな支払方式	
	6	看護サービスと診療報酬	
	7	看護制度と看護職養成における職能団体の役割 / 日本看護協会神戸研修センター教育研修部長 早川ひと美先生	
評 価 方 法	毎回、授業後にミニレポート（A5 1 枚）を課します。 3 点 ×7 回＝21 点（20％） 学期末試験 80 点（80％）。		
教 科 書	「看護関係法令（系看・専門基礎）」(医学書院)		
参 考 図 書	「基礎看護学〔1〕－看護学概論（系看）」(医学書院)、その他は講義中に紹介します。		
特 記 事 項			

看護管理学Ⅰ *Nursing Management and Administration Ⅰ*

1 単位

大 学 名	神戸市看護大学	担 当 教 員 氏 名	林 千冬 教授 花井 理紗 助教
開 講 期 間	後期 (11 月～1 月)	開 講 曜 日・時 間	水曜 2 限 (10:40 ～ 12:10)
履 修 条 件		募 集 人 員	5 名以内
教 室	未定	連 絡 先	gakumu@kobe-ccn.ac.jp

授 業 形 態	対面
授 業 方 法	講義

学 習 目 標	1. 組織の概念、組織論の変遷、組織化と組織構造の基本を説明できる。 2. マネジメント、リーダーシップとフォロワーシップの概念を説明でき、それぞれのあり方について考えることができる。 3. チームとチームワーク、多職種連携の概念と実際を説明でき、そこでの看護職者の役割について考えることができる。 4. 医療安全管理の実際について理解し、安全管理対策について考えることができる。
---------	---

授 業 概 要	保健医療の組織において、看護職者として自律的に活動していくために必要な、看護管理の基礎理論・基礎概念を教授する。加えて、看護の質保障ならびに質改善の概念を、医療安全と労働安全衛生の具体的な取り組みと併せて教授する。
---------	---

授業時間学習以外の学習 (準備学習含む)	毎回のミニレポートを授業の事後学習に活用してください。
----------------------	-----------------------------

授 業 計 画	1	イントロダクション: 看護、看護管理、看護管理学
	2	組織と集団 看護サービス提供の場と職位・役割
	3	リーダーシップ フォロワーシップ
	4	チーム医療と多職種連携 看護提供方式
	5	労働条件と労働安全衛生
	6	職場の暴力・ハラスメント防止
	7	医療安全管理—安全で質の高い看護の提供

評 価 方 法	毎回のミニレポート 3 点 ×7 回=21 点 (20%)。期末試験 80 点 (80%)。 ミニレポートでは、毎回の授業内容を正しく理解し、自分なりの考察が深められているかを評価します。
---------	---

教 科 書	系統看護学講座・基礎看護学〔1〕看護学概論・医学書院
-------	----------------------------

参 考 図 書	川島みどり監修: 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術、医学書院
---------	------------------------------------

特 記 事 項	
---------	--

まちづくりと減災復興 *Community Planning for Resilience*

2 単位

大 学 名	兵庫県立大学（神戸防災キャンパス）	担 当 教 員 氏 名	澤田 雅浩 准教授
開 講 期 間	前期（4/13 ～ 6/8）	開 講 曜 日・時 間	土曜 1・2 限（9:00 ～ 12:10）
履 修 条 件		募 集 人 員	若干名
教 室	大教室	連 絡 先	sawada@drg.u-hyogo.ac.jp

授 業 形 態	対面
授 業 方 法	講義
学 習 目 標	【講義目的】 将来発生が予想される巨大自然災害に対して、被害をなるべく少なくするために、個人や世帯の対策に加え、コミュニティ単位、地域単位での取組みの重要性が認識され、各地で多様な取組が進められている。一方、毎年のように地震災害や風水害等の自然災害が発生し、人々の暮らしは甚大な被害を受けている。被害を受けた地域は長期にわたる復興にむけたプロセスをすすめることになる。この講義では、それらの状況をふまえ、まちやむら、そこに暮らす人、すまいや生活に着目し、災害に対する都市の脆弱性の実態を整理しつつ、災害発生後の復興まちづくりプロセスや、将来の自然災害による被害を減じるための住民参画による事前対策（防災まちづくり）の実情について、事例等から説明する。 【到達目標】 1) 自然災害による都市・地域への影響を説明できる。 2) 自然災害による被害を減じるためのまちづくりの方法論、そして被害を受けた地域の復旧・復興の適切な計画論、方法論を選択できる。
授 業 概 要	我々の暮らしに自然災害がどのような影響を与えてきたのかを振り返るとともに、近年発生した巨大自然災害の被害とその特徴、そして復旧・復興プロセスを概観することで、復興のまちづくりの意義を理解するとともに、事前対策としての防災対策、そして平時のまちづくりの重要性を把握する。また講義のまとめとして、阪神・淡路大震災の復興の歩みを、空間づくり、まちづくり、ひとづくりなどの視点から、現地視察を行う。
授業時間学習以外の学習（準備学習含む）	【予習】授業に際して配布する資料を事前読み込み 【復習】レポート作成、講義内容の理解を深め定着させるために資料を読み直し
授 業 計 画	1 概要説明・都市と災害（様々な災害について） 2 災害対応の歴史（制度、事業などの概要） 3 神戸の災害とまちづくり（阪神・淡路大震災①） 4 神戸の災害とまちづくり（阪神・淡路大震災②） 5 近年の災害とまち・むらづくり（新潟県中越地震） 6 近年の災害とまち・むらづくり（東日本大震災・熊本地震） 7 最近の災害とまちづくり（西日本豪雨災害・令和2年7月豪雨災害） 8 海外の災害復興（台湾 921 地震） 9 海外の災害復興（トルコマルマラ地震・中国四川地震・イタリアラクイラ地震） 10 減災まちづくりの現状 11 地区防災計画とまちづくり 12 事前復興計画とまちづくり 13 フィールドワーク（神戸市内を予定①） 14 フィールドワーク（神戸市内を予定②） 15 まとめ（減災復興まちづくりとは）ワークショップ形式にて
評 価 方 法	毎回の講義に対するミニレポート 70%、フィールドワークのまとめ（ディスカッション） 30%、ミニレポートの期限後提出は減点して採点します。
教 科 書	なし。毎回資料を配布します。
参 考 図 書	講義中に適宜紹介します。

特 記 事 項	生成系 AI の利用については教員の指示に従ってください。研究の事前・事後学習や事例検索、翻訳等に補助的に生成系 AI を利用しても構いません。ただし、生成系 AI による出力結果をそのまま課題レポートとして提出しないようにしてください。生成系 AI による出力をそのまま提出したことが判明した場合は単位を認定しない、又は認定を取り消すことがあります。
---------	--

災害リスクマネジメント *Disaster Risk Management*

2 単位

大 学 名	兵庫県立大学 (神戸防災キャンパス)	担 当 教 員 氏 名	紅谷 昇平 准教授
開 講 期 間	前期 (4/13 ～ 6/8)	開 講 曜 日・時 間	土曜 1・2 限 (9:00 ～ 12:10)
履 修 条 件		募 集 人 員	若干名
教 室	中教室	連 絡 先	beni@drg.u-hyogo.ac.jp

授 業 形 態	対面																														
授 業 方 法	講義																														
学 習 目 標	【講義目的】 自然災害、人為災害や重大事故などの様々なリスクに対して、自治体や企業はとるべき対策を事前に検討し、準備や軽減策を講じておかなければならない。本講義では、まずリスクの基礎的な概念や災害リスクの種類、大きさについて理解する。その後、講義や講習を通じて、企業・自治体等の組織における、災害の影響を軽減するための実践的なリスクマネジメントの手法（リスクの同定、分析、評価、対応、等）やリスクを正しく理解し伝える手法（リスクコミュニケーション）を身に付けることを目的とする。 【到達目標】 1) リスクマネジメントの手法（リスクの同定、分析、評価、対応、等）を実際のリスクに適用し、必要な対策を説明できる 2) リスクを適切に表現し、伝えることができる ことである。																														
授 業 概 要	リスクについては、多くの分野で様々な定義が用いられているが、本講義では、主に経済学・経営学分野でのリスクの概念を採用する。その後、ISO31000、ISO22301 などのリスクマネジメント・危機管理等の枠組みに基づいて、実際の災害リスクマネジメントのプロセスや具体的な対策・計画等について説明し、実際の事例を交えながら、社会への応用方法を修得する。																														
授業時間学習以外の学習（準備学習含む）	【予習】授業に際して指示があった場合、そのテーマに関する参考資料の読み込み及び資料作成 【復習】授業終了後に出される課題への解答、授業内容に関連するレポートの作成																														
授 業 計 画	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>イントロダクション：用語と基本的枠組み</td></tr> <tr><td>2</td><td>リスクの基本概念：確率としてのリスクの考え方</td></tr> <tr><td>3</td><td>リスクコミュニケーション</td></tr> <tr><td>4</td><td>リスクの認識</td></tr> <tr><td>5</td><td>リスクマネジメントの枠組み</td></tr> <tr><td>6</td><td>災害リスクマネジメントの実際 (1) (組織状況の把握)</td></tr> <tr><td>7</td><td>災害リスクマネジメントの実際 (2) (リスクの明確化、分析、評価)</td></tr> <tr><td>8</td><td>災害リスクマネジメントの実際 (3) (リスク対応)</td></tr> <tr><td>9</td><td>災害リスクマネジメントの実際 (4) (モニタリング)</td></tr> <tr><td>10</td><td>産業被害の特徴と BCM (事業継続マネジメント)</td></tr> <tr><td>11</td><td>ケーススタディ (1)</td></tr> <tr><td>12</td><td>ケーススタディ (2)</td></tr> <tr><td>13</td><td>レポートの講評</td></tr> <tr><td>14</td><td>災害リスクマネジメント講習</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめと評価 (到達度の確認)</td></tr> </table>	1	イントロダクション：用語と基本的枠組み	2	リスクの基本概念：確率としてのリスクの考え方	3	リスクコミュニケーション	4	リスクの認識	5	リスクマネジメントの枠組み	6	災害リスクマネジメントの実際 (1) (組織状況の把握)	7	災害リスクマネジメントの実際 (2) (リスクの明確化、分析、評価)	8	災害リスクマネジメントの実際 (3) (リスク対応)	9	災害リスクマネジメントの実際 (4) (モニタリング)	10	産業被害の特徴と BCM (事業継続マネジメント)	11	ケーススタディ (1)	12	ケーススタディ (2)	13	レポートの講評	14	災害リスクマネジメント講習	15	まとめと評価 (到達度の確認)
1	イントロダクション：用語と基本的枠組み																														
2	リスクの基本概念：確率としてのリスクの考え方																														
3	リスクコミュニケーション																														
4	リスクの認識																														
5	リスクマネジメントの枠組み																														
6	災害リスクマネジメントの実際 (1) (組織状況の把握)																														
7	災害リスクマネジメントの実際 (2) (リスクの明確化、分析、評価)																														
8	災害リスクマネジメントの実際 (3) (リスク対応)																														
9	災害リスクマネジメントの実際 (4) (モニタリング)																														
10	産業被害の特徴と BCM (事業継続マネジメント)																														
11	ケーススタディ (1)																														
12	ケーススタディ (2)																														
13	レポートの講評																														
14	災害リスクマネジメント講習																														
15	まとめと評価 (到達度の確認)																														
評 価 方 法	授業後の確認テスト (50%)、レポート (50%) を基準として、受講態度 (積極的な質問等) を含めて総合的に評価する。																														
教 科 書	講義内で資料を配布する。																														

参 考 図 書	本講義の参考となる読みやすい文献として、以下のものをお勧めします。必須ではありませんので、授業の内容をもっと知りたいと思ったときに購入してください。 中谷内一也「リスクのモノサシ」日本放送協会 ゲルト・キーゲレンツァー（吉田利子訳）「リスク・リテラシーが身につく統計的思考法」早川書房 西澤真理子「リスクコミュニケーション」エネルギーフォーラム新書 石井至「リスクのしくみ」東洋経済新報社 東京海上日動リスクコンサルティング「企業の地震リスクマネジメント入門」日科技連 リスクマネジメント規格活用検討会「ISO31000：2009 リスクマネジメント 解説と適用ガイド」日本規格協会 日本災害情報学会「災害情報学事典」朝倉書店
特 記 事 項	生成 AI の利用については教員の指示に従うこと。研究の事前・事後学習や事例検索、翻訳等に補助的に生成系 AI を利用しても良い。ただし、生成系 AI による出力結果をそのまま課題レポートとして提出してはいけない。生成系 AI による出力をそのまま提出したことが判明した場合は単位を認定しない、又は認定を取り消すことがある。

大 学 名	兵庫県立大学（神戸防災キャンパス）	担 当 教 員 氏 名	谷口 博 准教授
開 講 期 間	前期（6/8 ～ 7/27）	開 講 曜 日・時 間	土曜 1・2 限（9:00 ～ 12:10）
履 修 条 件		募 集 人 員	若干名
教 室	中教室	連 絡 先	taniro@u-hyogo.ac.jp

授 業 形 態	対面																														
授 業 方 法	講義																														
学 習 目 標	【講義目的】 本講義では、気象災害をもたらす「気象」の様々な素課程と、「気候」について学び、気象と気候の関係やそれらが人類に及ぼす災害について理解を深める。さらに、気象災害のメカニズムについて学び、今後増加すると考えられる気候変動による気象災害への影響と対策について、考察をしたい。 【到達目標】 1) 本講義で扱う気象の諸原理や諸現象について専門用語を用いて説明ができること。 2) 気象と気候の違いを説明できること、気象災害を引き起こす現象のメカニズムを説明できること。 3) 気候変動による気象災害の具体例を挙げて説明できること。 4) 気象防災のための気象予報の手法について専門用語を用いて説明できること。																														
授 業 概 要	本講義では、気象災害を引き起こす気象の諸原理や諸現象を数学や物理学を用いて説明し気象の概観を行う。次いで、地球規模の大気大循環について解説し、気候変動のメカニズムや地球温暖化、気象災害との関わりについて説明を行う。最後に気象予報や気候予測の手法を概観し、防災・減災の観点から予報や予測の活用方法について考察を行う。																														
授業時間学習以外の学習（準備学習含む）	【予習】授業に際して指示するテキストや資料の事前読み込み 【復習】講義内容の理解を深め定着させるためにテキスト・資料を読み直し																														
授 業 計 画	<table><tr><td>1</td><td>概要説明・都市と災害（様々な災害について）</td></tr><tr><td>2</td><td>災害対応の歴史（制度、事業などの概要）</td></tr><tr><td>3</td><td>神戸の災害とまちづくり（阪神・淡路大震災①）</td></tr><tr><td>4</td><td>神戸の災害とまちづくり（阪神・淡路大震災②）</td></tr><tr><td>5</td><td>近年の災害とまち・むらづくり（新潟県中越地震）</td></tr><tr><td>6</td><td>近年の災害とまち・むらづくり（東日本大震災・熊本地震）</td></tr><tr><td>7</td><td>最近の災害とまちづくり（西日本豪雨災害・令和2年7月豪雨災害）</td></tr><tr><td>8</td><td>海外の災害復興（台湾 921 地震）</td></tr><tr><td>9</td><td>海外の災害復興（トルコマルマラ地震・中国四川地震・イタリアラクイラ地震）</td></tr><tr><td>10</td><td>減災まちづくりの現状</td></tr><tr><td>11</td><td>地区防災計画とまちづくり</td></tr><tr><td>12</td><td>事前復興計画とまちづくり</td></tr><tr><td>13</td><td>フィールドワーク（神戸市内を予定①）</td></tr><tr><td>14</td><td>フィールドワーク（神戸市内を予定②）</td></tr><tr><td>15</td><td>まとめ（減災復興まちづくりとは）ワークショップ形式にて</td></tr></table>	1	概要説明・都市と災害（様々な災害について）	2	災害対応の歴史（制度、事業などの概要）	3	神戸の災害とまちづくり（阪神・淡路大震災①）	4	神戸の災害とまちづくり（阪神・淡路大震災②）	5	近年の災害とまち・むらづくり（新潟県中越地震）	6	近年の災害とまち・むらづくり（東日本大震災・熊本地震）	7	最近の災害とまちづくり（西日本豪雨災害・令和2年7月豪雨災害）	8	海外の災害復興（台湾 921 地震）	9	海外の災害復興（トルコマルマラ地震・中国四川地震・イタリアラクイラ地震）	10	減災まちづくりの現状	11	地区防災計画とまちづくり	12	事前復興計画とまちづくり	13	フィールドワーク（神戸市内を予定①）	14	フィールドワーク（神戸市内を予定②）	15	まとめ（減災復興まちづくりとは）ワークショップ形式にて
1	概要説明・都市と災害（様々な災害について）																														
2	災害対応の歴史（制度、事業などの概要）																														
3	神戸の災害とまちづくり（阪神・淡路大震災①）																														
4	神戸の災害とまちづくり（阪神・淡路大震災②）																														
5	近年の災害とまち・むらづくり（新潟県中越地震）																														
6	近年の災害とまち・むらづくり（東日本大震災・熊本地震）																														
7	最近の災害とまちづくり（西日本豪雨災害・令和2年7月豪雨災害）																														
8	海外の災害復興（台湾 921 地震）																														
9	海外の災害復興（トルコマルマラ地震・中国四川地震・イタリアラクイラ地震）																														
10	減災まちづくりの現状																														
11	地区防災計画とまちづくり																														
12	事前復興計画とまちづくり																														
13	フィールドワーク（神戸市内を予定①）																														
14	フィールドワーク（神戸市内を予定②）																														
15	まとめ（減災復興まちづくりとは）ワークショップ形式にて																														
評 価 方 法	到達度確認 90%、授業態度 10% を基準として、総合的に評価する。																														
教 科 書	一般気象学・第2版（小倉義光著、東京大学出版会、2016）																														
参 考 図 書	適宜、授業中に紹介する予定である。																														
特 記 事 項	授業における生成系 AI について、講義中に題した課題については学生が作成することを前提にしているため、生成系 AI のみを用いて作成することはできません。																														

減災復興政策概論

Introduction to Disaster Resilience and Governance

2 単位

大 学 名	兵庫県立大学 (神戸防災キャンパス)	担 当 教 員 氏 名	青田 良介 教授
開 講 期 間	前期 (6/8 ～ 7/27)	開 講 曜 日 ・ 時 間	土曜 1・2 限 (9:00 ～ 12:10)
履 修 条 件		募 集 人 員	若干名
教 室	大教室	連 絡 先	ryosuke_aota@drg.u-hyogo.ac.jp

授 業 形 態	対面
授 業 方 法	講義、実習
学 習 目 標	【講義目的】 本講義は、防災リーダー教育プログラムの専門科目として、応急対応、復旧・復興、将来の災害への備え等フェーズ毎の対応や対策等に関する知識を体系的に学ぶことを目的とする。 【到達目標】 災害に強い社会を構築する上で必要な減災復興政策を学修することで、必要な基礎知識及びそれを踏まえた思考力判断力を身につけ、表現できることを目標とする。
授 業 概 要	「災害直後の緊急対応」「復旧・復興」「次の災害への備え」の災害フェーズ毎に知っておくべき主な対応や対策、制度の枠組み、社会の仕組み、課題等について、阪神・淡路大震災、東日本大震災、あるいは近年の豪雨災害等の事例を交えながら体系的に説明するとともに、南海トラフ地震等、来るべき巨大災害への対策を考察する。
授業時間学習以外の学習 (準備学習含む)	【予習】 事前配布資料やその関連事項について予習する 【復習】 学習内容 (ノート) の見直し及びそれに踏まえた発展的学習
授 業 計 画	1 イントロダクション: 減災復興政策とは (本講義の目的と達成目標)
	2 阪神・淡路大震災後の応急対応・復旧・復興 (概要)
	3 避難への対応と課題
	4 住宅・生活再建と支援
	5 福祉と防災の連携
	6 コミュニティと災害に強いまちづくり
	7 防災教育と教訓の継承
	8 グループディスカッション
	9 行政の対応とその限界
	10 ボランティア、NGO/NPO の役割
	11 中越大地震からの復旧・復興
	12 東日本大震災からの復旧・復興
	13 能登半島地震から学ぶ
	14 南海トラフ地震に備える
	15 まとめと評価: グループディスカッション (到達度の確認、レポート試験)
評 価 方 法	小テスト (30%)、レポート試験 (60%、7月最終講義後に実施) を基準として、受講態度 (10%、積極的質問等) を含めて総合的に評価する。
教 科 書	講義毎に配布する。
参 考 図 書	・「災害対応ハンドブック」野呂正之・津久井進・山崎栄一編著、法律文化社 ・「活かす 1.17 は忘れない」兵庫県 (公財) 阪神・淡路大震災復興基金 ・「災害に立ち向かう人づくり: 減災社会構築と被災地復興の礎」室崎益輝・富永良喜・兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科、ミネルヴァ書房
特 記 事 項	生成系 AI の利用については教員の指示に従うこと。研究の事前・事後学習や事例検索・翻訳等に補助的に生成系 AI を利用しても良い。ただし、生成系 AI による出力結果をそのまま課題レポートとして提出してはいけない。生成系 AI による出力をそのまま提出したことが判明した場合は単位を認定しない、又は認定を取り消すことがある。

大 学 名	兵庫県立大学（神戸防災キャンパス）	担 当 教 員 氏 名	浦川 豪 教授
開 講 期 間	夏季集中講義（8/27～8/29）	開 講 曜 日・ 時 間	1 限～5 限（9:00～17:50）
履 修 条 件		募 集 人 員	若干名
教 室	大教室	連 絡 先	g_urakawa@drg.u-hyogo.ac.jp
授 業 形 態	対面		
授 業 方 法	講義		
学 習 目 標	【講義目的】 災害発生に直面すると個人が様々な判断をしなければなりません。本講義では、自らが災害に直面した際に自分、家族、近隣や仲間の命や財産を守るための判断に役立つ知識を説明し、さらに災害対応に役立つ実践的な演習を実施する。 【到達目標】 1) 災害対応に関する基礎知識、基礎技術を習得すること 2) 災害対応方策について学生どうしで議論し、合意形成することができる		
授 業 概 要	講義では、まず、災害対応に関する基礎知識について説明する。また、避難や救命・救助等自分、家族の身を守る様々な災害対応に関する実習を実施する。		
授業時間学習以外の学習（準備学習含む）	【予習】 授業に際して指示する項目の事前調査 【復習】 学習内容（ノート）の見直し		
授 業 計 画	1	ガイダンス：本講義の目的と到達目標	
	2	多様性に配慮したアウトドア防災・地震	
	3	多様性に配慮したアウトドア防災・風水害	
	4	災害対応に役立つ情報	
	5	災害対応に役立つ基礎知識とりまとめ	
	6	水害リスクを知るマイハザードマップの作成	
	7	避難行動のためのマイタイムラインの作成	
	8	避難行動のためのマイタイムラインの共有	
	9	自衛隊における災害派遣	
	10	自衛隊における被災地活動の体験	
	11	地震に強い木造建物模型製作	
	12	被災地のジレンマ・ゲーミング	
	13	災害対策本部の役割	
	14	災害対策本部設置演習	
	15	まとめと評価・到達度の確認	
評 価 方 法	講義内でのレポート、学習態度と理解度（第 15 回、到達度の確認）により総合的に評価する。		
教 科 書	一般気象学・第 2 版（小倉義光著、東京大学出版会、2016）		
参 考 図 書	適宜、授業中に紹介する予定である。		
特 記 事 項	災害対応に関する基礎知識と技術を得ることができます。 生成系 AI の利用については教員の指示に従うこと。事前・事後学習や事例検索、翻訳等に補助的に生成系 AI を利用しても良い。ただし、生成系 AI による出力結果をそのまま課題レポートとして提出してはいけない。生成系 AI による出力をそのまま提出したことが判明した場合は単位を認定しない、又は認定を取り消すことがある。		

大 学 名	兵庫県立大学 (神戸防災キャンパス)	担 当 教 員 氏 名	松川 杏寧 准教授
開 講 期 間	後期 (10/5 ～ 12/7)	開 講 曜 日・ 時 間	土曜 1・2 限 (9:00 ～ 12:10)
履 修 条 件		募 集 人 員	若干名
教 室	大教室	連 絡 先	anna.matsukawa@drg.u-hyogo.ac.jp

授 業 形 態	対面
授 業 方 法	講義
学 習 目 標	【講義目的】 災害は、様々な形で人と社会に影響を及ぼす。直接的な影響だけでなく、間接的に精神や身体へ影響を及ぼす。また、被災者だけでなく、災害対応に関わる多くの人々に影響を及ぼす。これらの災害がひとの健康にもたらす影響と、それらへの対応について論究する。 【到達目標】 1) 災害が、被災者及び災害対応に関わる人々の心身の健康に及ぼす影響とその要因及び解決のための対策を説明できること。 2) それら要因や対策について、時間軸、被災者の生活状況（避難所、仮設住宅等）、支援者、関わる専門職等について理解し、被災地において健康を維持するための環境づくりについて説明できる。
授 業 概 要	本講義では、被災者のこころと身体の影響に及ぼす要因と対策について、災害発生からの時間経過とともに変化する生活環境や地域コミュニティ等を軸として講義する。具体的には、避難所や仮設住宅等における生活環境とストレス要因、その対策として必要となる医療活動、健康支援のための社会システムや行政・NPO等の取り組み、被災者をとりまくコミュニティのあり方等について講術する。
授業時間学習以外の学習（準備学習含む）	【予習】 授業に際して指示するテキスト・オンデマンド教材の部分を事前読み込み。 【復習】 レポート作成、講義内容の理解を深め定着させるためにテキスト・オンデマンド教材の読み直し。
授 業 計 画	1 ガイダンス 本講義の目標や概要の説明 2 被災者のストレスと回復 3 被災者が抱える課題（災害直後） 4 被災者が抱える課題（復旧・復興） 5 被災者支援に関する法制度 6 災害ケースマネジメント 7 災害時要援護者への支援① 8 災害時要援護者への支援② 9 被災者と家族の健康と支援 10 家族・つながりと復興・生活再建 11 災害対応行政と保健医療福祉 12 公的支援と民間支援 13 ボランティアの取り組み 14 惨事ストレスと支援者支援 15 グループディスカッション発表、講義のまとめと評価（到達度の確認）
評 価 方 法	レポート 90% を基準として、受講態度（積極的な質問やグループワークへの参加等）を含めて総合的に評価する。
教 科 書	授業前に資料を配布する。
参 考 図 書	立木茂雄『災害と復学の社会学』萌書房、2016 立木茂雄『誰一人取り残さない防災に向けて、福祉関係者が身につけるべきこと（I-BOSAI プラット）』萌書房、2020

特 記 事 項	ChatGPT 等の生成系 AI の取扱いについては、使用そのものは制限しないが、以下の 2 点については十分に理解し承知することが大前提。1) 学位やレポートについては、学生本人が作成することを前提としているので、生成系 AI のみを用いてこれらを作成することはできない。2) 生成系 AI は常に 100% 正しい答えを生成するものではなく、書かれている内容には嘘が含まれることがある。上記を十分に理解して使用する分にはとがめることはないが、実際に使いこなすには、人間側に専門的な知識と技術がかなり必要とされるので、愚かな使い方はしないこと。ChatGPT に送った質問の文章も。ChatGPT のシステムに蓄積され、学習される可能性があり、原理的には送信した内容を他者が引き出すことも可能だと思うこと（つまり個人情報などは絶対に送信しないこと）。
---------	---

防災教育とリスクコミュニケーション

2 単位

Disaster Education and Risk Communication

大 学 名	兵庫県立大学 (神戸防災キャンパス)	担 当 教 員 氏 名	阪本 真由美 教授
開 講 期 間	後期 (10/5 ～ 12/7)	開 講 曜 日 ・ 時 間	土曜 1・2 限 (9:00 ～ 12:10)
履 修 条 件		募 集 人 員	若干名
教 室	中教室	連 絡 先	神戸防災キャンパス代表 gensai@fc.u-hyogo.ac.jp

授 業 形 態	対面
授 業 方 法	講義

学 習 目 標	【講義目的】 災害にどのように備えることができるのか、災害発生時に被害を少なくする減災行動はいかにあるべきか、被災した人々にどのように接するのかについて、基礎的な知識を身につけることを目的とする。 【到達目標】 災害が起こった直後（緊急期）の防災教育と心のケアのあり方、中長期（復興期）の語り継ぐ防災教育について考えることで、防災教育と心のケアの一体的取り組みを関係づけ説明できるようにすること。
---------	--

授 業 概 要	防災教育と心のケアを、災害前、災害発生時、災害直後、中長期の 4 期にわけて、阪神・淡路大地震、東日本大震災などの過去の大規模災害の経験から学ぶ。グループワークをとり入れることにより学びを深める。
---------	--

授業時間学習以外の学習 (準備学習含む)	【予習】授業で示す資料を読み込み準備する。また、発表資料を準備する。 【復習】講義の理解を深めるためのレポートを作成する。
----------------------	---

授 業 計 画	1	防災教育と心のケア
	2	災害発生時の避難行動
	3	震災学習
	4	被災経験から学ぶ：人と防災未来センター
	5	被災経験の伝え方
	6	災害と防災教育の歴史的変遷
	7	災害時の学校の対応
	8	被災した学校再開をめぐる課題
	9	災害発生直後の防災教育と心のケア
	10	災害発生直後の心のケアの実践
	11	中長期の学校での防災教育を取り入れた心のサポート授業
	12	災害時の防災教育と心のケア
	13	学校安全と避難訓練
	14	実践的な避難訓練プログラムの検討
	15	評価とまとめ

評 価 方 法	レポート・小テスト、受講態度（積極的な質問等）を含めて総合的に評価する。
---------	--------------------------------------

教 科 書	窪田由紀他編「災害に備える心理教育」ミネルヴァ書房 2016 年 富永良喜「大災害と子どもの心」岩波ブックレット 2012 年
-------	--

参 考 図 書	講義の中で紹介する。
---------	------------

特 記 事 項	生成系 AI の利用については教員の指示に従うこと。研究の事前・事後学習や事例検索、翻訳等に補助的に生成系 AI を利用しても良い。ただし、生成系 AI による出力結果をそのまま課題レポートとして提出してはいけない。生成系 AI による出力をそのまま提出したことが判明した場合は単位を認定しない、又は認定を取り消すことがある。
---------	---

大 学 名	兵庫県立大学（神戸防災キャンパス）	担 当 教 員 氏 名	平井 敬 准教授
開 講 期 間	後期（12/7 ～ 2/1）	開 講 曜 日・ 時 間	土曜 1・2 限（9:00 ～ 12:10）
履 修 条 件		募 集 人 員	若干名
教 室	大教室	連 絡 先	hirai.takashi@drg.u-hyogo.ac.jp

授 業 形 態	対面
授 業 方 法	講義
学 習 目 標	【講義目的】 日本列島はプレートの収束帯に位置しているため、地震・津波は避けることのできない災害である。本講義では、地震・津波とそれによる災害に関する基礎的な事項について理解することを目的とする。あわせて、地震・津波に対する防災・減災の現状と課題について考える。 【到達目標】 1) 自然現象としての地震・津波の特性を説明できること 2) 地震・津波による災害の歴史と特徴を説明できること 3) 地震・津波防災の現状を認識しみずから課題を発見できる能力を身につけることを到達目標とする。
授 業 概 要	まず、地球の営みとしてのプレートテクトニクスから始めて、地震発生のしくみ、地震波伝播と地表付近での増幅、構造物の振動応答に至るまでの一連の現象について俯瞰的に理解できるように講義する。あわせて、津波の発生と伝播についても取り扱う。さらに、地震・津波の観測や予測等、防災・減災に資する技術や取り組みについて紹介する。
授業時間学習以外の学習（準備学習含む）	【予習】 授業に際して指示するテキストや資料の事前読み込み 【復習】 講義内容の理解を深め定着させるためにテキスト・資料を読み直し
授 業 計 画	1 ガイダンス 本講義の目的と概要
	2 太陽系・地球・日本列島の形成とプレートテクトニクス
	3 地震発生のメカニズム：地学的背景
	4 地震発生のメカニズム：震源課程
	5 地震発生のメカニズム：振動論
	6 地震発生のメカニズム：弾性波動論
	7 地震発生のメカニズム：地下構造
	8 構造物の地震応答
	9 地震防災技術
	10 津波発生と伝播のメカニズム
	11 津波防災技術
	12 地震・津波の観測
	13 観測システムとデータ処理
	14 地震・津波の発生予測
	15 地震動予測
評 価 方 法	毎回の講義の際に実施する確認テストにより評価する。
教 科 書	講義の際に資料を配布する。
参 考 図 書	福和伸夫、飛田潤、平井敬：耐震工学 教養から基礎・応用へ（講談社サイエンティフィク、2019）
特 記 事 項	授業における生成 AI の使用について、この授業においては生成 AI の利用を予定していないが、学生が利用する場合には参考文献が実在するかなど事実確認を必ず行うこと。

自然災害と観光復興 *Natural disaster and tourism development for recovery*

2 単位

大 学 名	兵庫県立大学 (神戸防災キャンパス)	担 当 教 員 氏 名	馬場 美智子 教授
開 講 期 間	後期 (12/7 ~ 2/1)	開 講 曜 日・時 間	土曜 1・2 限 (9:00 ~ 12:10)
履 修 条 件		募 集 人 員	若干名
教 室	中教室	連 絡 先	banba@drg.u-hyogo.ac.jp

授 業 形 態	対面
授 業 方 法	講義

学 習 目 標	【講義目的】 災害後の観光復興を学ぶ上で、被災地の特性を理解し、地域の復興につながる観光のあり方を考えることが重要である。本講義では、被災地の復興に資する観光開発において重要な概念や方法論を学び、観光復興プランを提案することで理解を深める。 【到達目標】 1) 被災地の地域課題を理解し分析できること 2) 復興に関する基礎知識を修得すること 3) 観光を通じた被災地の復興の方法論について論じられること、である。
---------	---

授 業 概 要	本講義では、被災地の復興における役割を理解し、観光促進のための基盤整備、観光マーケティングによる旅行者のニーズ分析、地域資源を生かした観光開発、観光の社会的概念について講義する。また、ケーススタディとグループディスカッションを通して、観光復興の方法について考え議論しながら被災地における観光復興プランを提案しプレゼンテーションを行う。
---------	--

授業時間学習以外の学習 (準備学習含む)	【予習】 テキストの事前読み込み、文献検索 【復習】 レポート作成、プレゼンテーションの準備、テスト、講義・ディスカッション内容を基に復習
----------------------	---

授 業 計 画	1	イントロダクション: 本講義の目標や概要
	2	被災地の地域特性と課題
	3	観光の概念と被災地復興における役割
	4	災害からの観光復興政策と災害観光の功罪
	5	交通基盤整備等の復興事業の観光促進効果
	6	被災地の地域資源と観光マーケティング
	7	観光復興による被災地への地域効果
	8	観光復興事例① (阪神・淡路大震災、雲仙普賢岳噴火、熊本地震等)
	9	観光復興事例② (東日本大震災等)
	10	海外の観光復興事例 (ハワイ、ニュージーランド、フィリピン他)
	11	災害時の観光客への対応と構え
	12	ケーススタディワークショップ: 被災地の課題整理
	13	ケーススタディワークショップ: プランニング
	14	ケーススタディワークショップ: プランのとりまとめ
	15	まとめと評価 (到達度の確認)

評 価 方 法	レポート 60%、プレゼンテーション 30% を基準として、受講態度 (積極的な質問等) を含めて総合的に評価する。
---------	--

教 科 書	
-------	--

参 考 図 書	
---------	--

特 記 事 項	生成系 AI については、教員の許可があれば、学生はその指示の範囲内で使うことを可とします。課題・レポート等の作成に際して、教員の認める範囲を超えて生成系 AI を使用したことが判明した場合は、単位を認定しないこと、または認定を取り消すことがあります。
---------	---